
川南町立中学校統合整備計画 | 施設計画 編

2026年3月26日

株式会社イツノマ
一級建築士事務所コンターアーキテクト

目次

1. 施設計画編の目的と位置づけ

- 1－1. 本編の目的
- 1－2. 川南町立中学校統合に係る基本方針との関係
- 1－3. 施設計画編における検討範囲

2. 計画敷地の可能性と周辺環境の価値

- 2－1. 計画敷地の位置と川南町での位置づけ
- 2－2. 周辺公共施設・公共機能との連携可能性
- 2－3. 周辺環境と人の流れ
- 2－4. 地形・景観・環境の特性

3. 新中学校統合整備における与条件整理

- 3－1. 新中学校計画の前提条件
- 3－2. 周辺公共施設との機能分担・連携活用
- 3－3. 必要諸室の整理

4. 新中学校の“新”学校整備方針

- 4－1. 上位方針を実現する“新”学校整備方針
- 4－2. 目指す学校像と“川南中”学校コンセプト
- 4－3. 目指す生徒像とあるべき学び・生活アクティビティ
- 4－4. 基本コンセプトと“新”学校整備方針

5. 施設計画

- 5－1. 全体ゾーニング計画
- 5－2. 敷地造成・レベル計画の考え方
- 5－3. 平面計画
- 5－4. 必要面積のフレーム
- 5－5. 工事費概算の考え方
- 5－6. 空間イメージと木質化の方向性

6. 最後に

- 6－1. 今後の検討課題

1. 施設計画編の目的と位置づけ

新中学校の施設計画の考え方を整理する

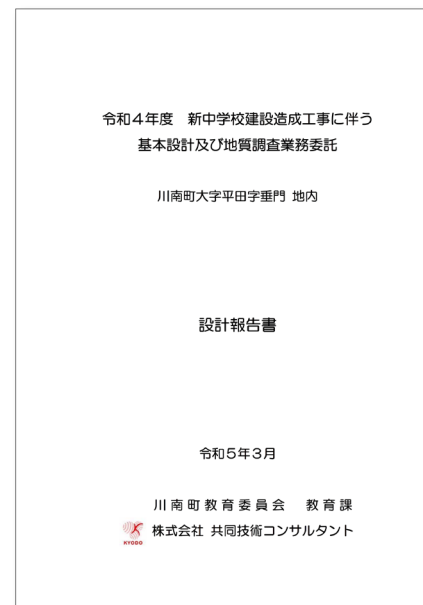
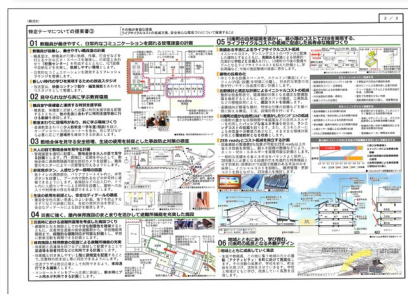
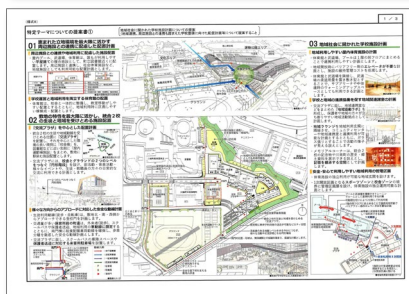
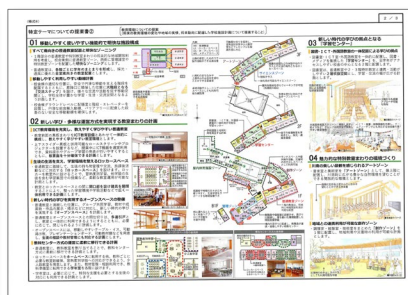
- 本編は、川南町にある「唐瀬原中学校」と「国光原中学校」を統合し、令和13年度の開校を目指す新中学校の施設計画の考え方を、下記の観点から整理するものである。
 - ① あわせて、計画敷地の**土地利活用、周辺施設との連携可能性**を整理し、**新中学校に有効な施設配置**および**施設計画の方向性**を検討する。
 - ② また、**将来の小学校再編の可能性**も見据え、今後の変化に対応しやすい計画の考え方を整理する。

- 本編は、令和7年に策定された「川南町立中学校の統合に係る基本方針」を踏まえて作成する。
- 基本方針に示された「目指す学校像」「目指す生徒像」「基本コンセプト」「整備方針」を、施設計画の考え方へ置き換えることを目的とする。
- つまり本編は、川南町が目指す新しい中学校の姿を、敷地の使い方、施設の配置、必要な機能として具体化するものである。

▲「川南町立中学校の統合に係る基本方針～ 中学校のよりよい教育環境を求めて～」令和7年

本編で扱う内容と検討の範囲を定める

- 本編は、これまでの施設計画検討や土地造成計画検討の内容を踏まえた上で、新たな条件を加えて施設計画を整理するものである。
- 検討対象は、敷地利用、施設配置、周辺施設との連携、必要機能の考え方とする。
- 一方で、本編は正式な基本計画書ではなく、詳細な法規チェックや構造・設備の検討は行わず、既往検討の条件の範囲で計画の方向性を整理する。

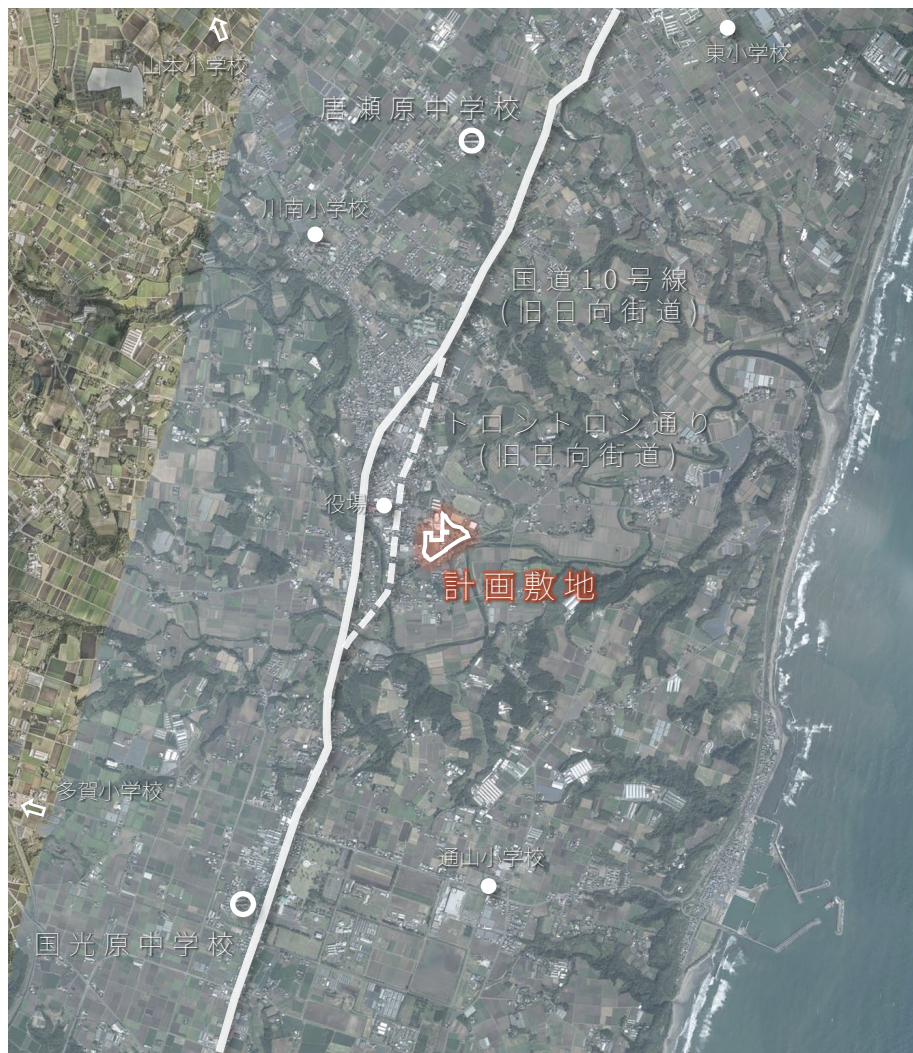


▲川南町立新中学校建設基本・実施設計業務委託に係る公募型プロポーザル

▲新中学校建設造成工事に伴う基本設計及び地質調査業務委託 設計報告書

2. 計画敷地の可能性と周辺環境の価値

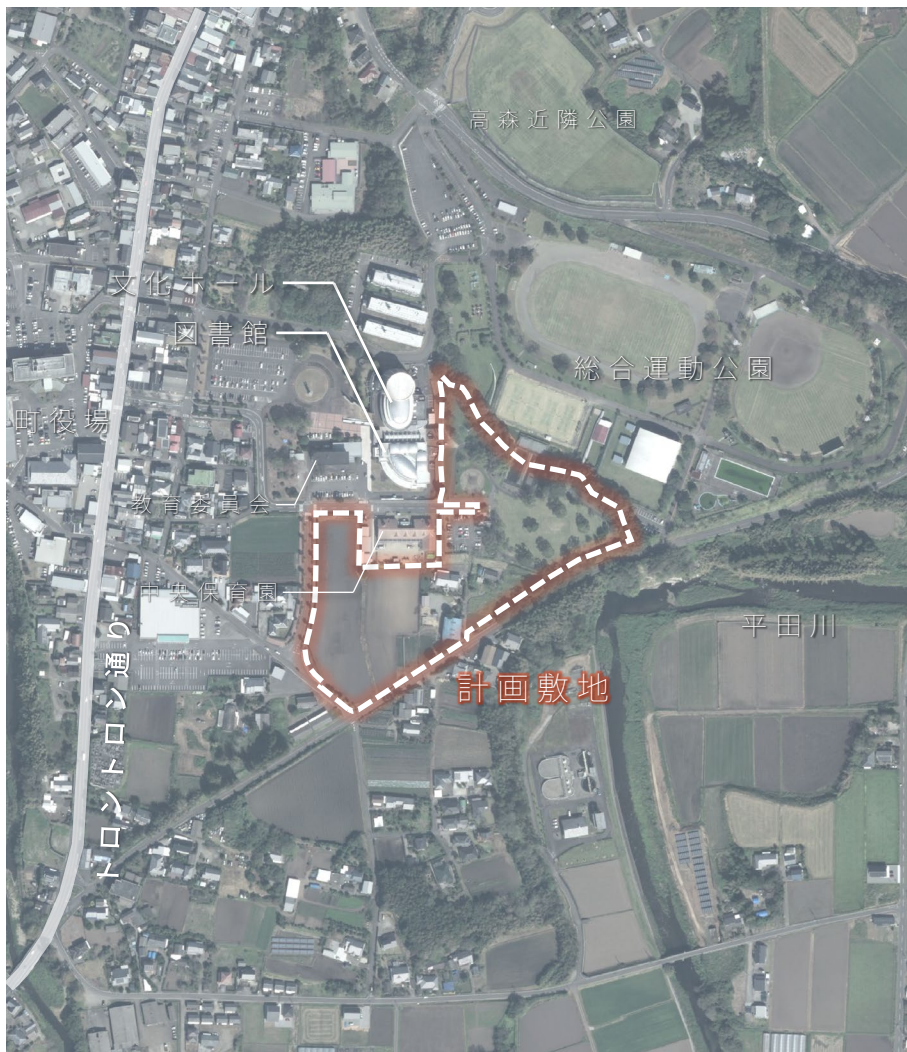
「唐瀬原中学校」と「国光原中学校」のちょうど真ん中 “川南町の中心”



▲地理院地図 GSI Maps

- 本計画地は、唐瀬原中学校と国光原中学校を統合して整備する新中学校の候補地として、**町中央部に位置する場所**である。
- **既存2校の間に位置し**、川南町全体の中で見ても、バランスのよい立地である。
- また、学校単体で完結する敷地ではなく、**周辺公共施設と連携しながら、学校内外に広がる学習環境をつくりやすい場所**でもある。

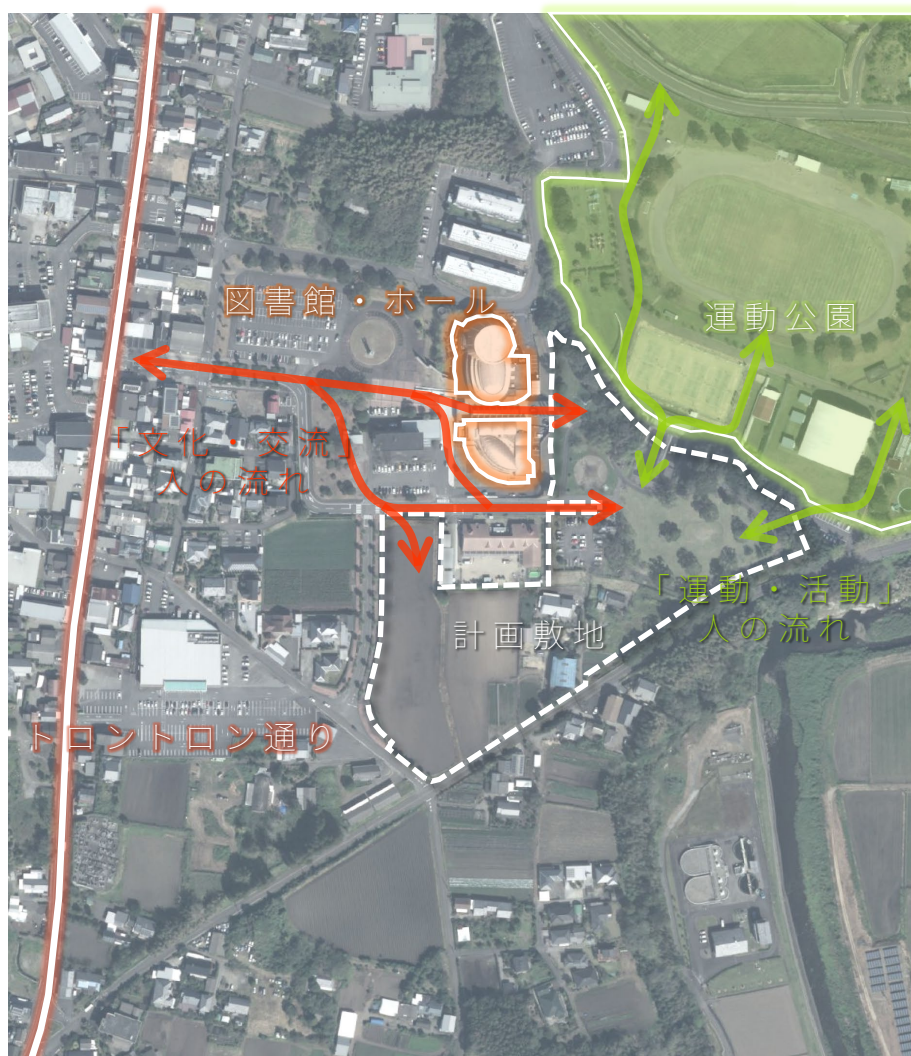
図書館・ホール・運動公園と連携できる環境



▲地理院地図 GSI Maps

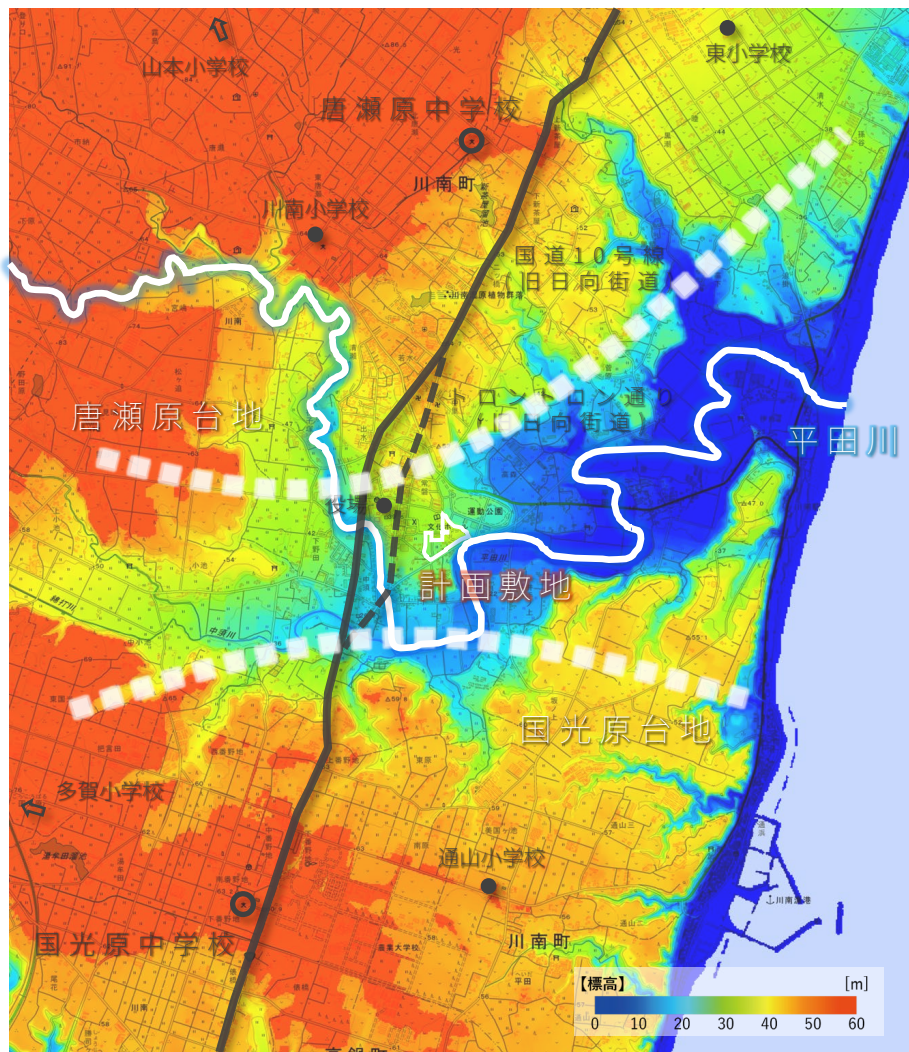
- 計画地は、図書館、文化ホール、総合運動公園、トロントン通りに近接し、学校活動を学校の外へ広げやすい立地である。
- 図書館の学習室・研修室・ミニシアター、文化ホールのリハーサル室・会議室、総合運動公園の陸上競技場・野球場・屋内練習場・テニスコートなどを活用することで、**学校単体だけでは持ちにくい高水準で多様な学習・文化・運動環境を日常的に使うことができる。**
- また、軽トラ市が開かれるトロントン通りのにぎわいにも近く、地域と接続した学校活動を展開しやすい。

文化・交流 と 運動・活動の流れが交わる計画地



- 計画地の周辺には、図書館・文化ホール側からの文化・交流の流れと、総合運動公園側からの運動・活動の流れがある。
- さらに、平均来場者数が1万人、月1回「トロントロン軽トラ市」が開催されるトロントロン通りとも近く、地域の日常的な人の動きと接続しやすい。
- そのため本計画地は、学校だけの場として閉じるのではなく、まちの多様な活動の流れを受け止めながら、新しい中学校の拠点をつくることのできる場所である。

平田川が分けた川南町の2つの台地 求心性のある谷の“岬の先っぽ”



▲地理院地図 GSI Maps

- 川南町は、平田川によって削られた谷により、北側の唐瀬原台地と南側の国光原台地の2つに分かれている。
- 計画地は2つの台地によって囲まれた谷の“岬の先っぽ”に位置する。
- この地形条件は、**南北に分かれ台地にある2つの地域をつなぐ新中学校**の立地としてのわかりやすさを持ち、川南全体に開かれた拠点をつくるうえで大きな特徴となっている。

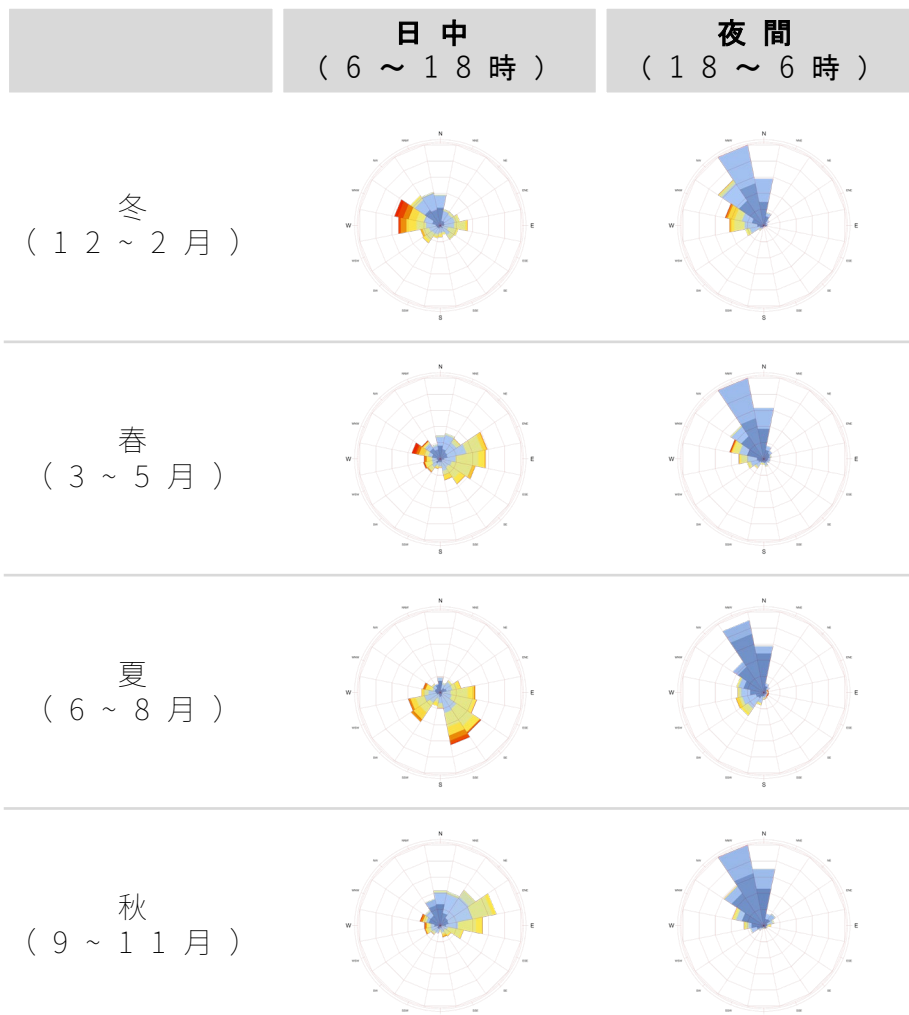
“岬の先っぽ”の高台 何より空が広い



▲計画敷地の現況写真

- 計画地は、“岬の先っぽ”の高台にあり、周囲に対して**空の広がり**を強く感じられる場所である。
- **東には海、西には山**という明快な方向性があり、川南らしい地形の広がりを日常の風景として感じやすい。
- この**開放感**と**自然の軸**は、新中学校の空間構成や居場所の質を考える上で、大きな環境的な魅力となる。

“海と山の軸”が風の流れをつくり、川南の風は東西に吹く



- 川南では、海と山の軸に沿って、春・秋の日中に東西方向の風が現れやすい。
- 学校では中間期の日中に自然通風を活かしやすく、校舎配置や開口計画によって、風の通り道をつくることが重要である。
- また、夜間の風も活用できれば、建物にこもった熱を逃がす工夫にもつなげることができる。

▲川南町付近の季節毎の時間別風配図 (※10年間(2015~2024)の高鍋アメダス気象データより作成)

いま必要な新中学校を成立させつつ、将来の再編も受け止められる骨格

- 本計画は、**唐瀬原中学校と国光原中学校を統合した新中学校**として、まず無理なく成立することを前提とする。
- その上で、町中央部に新中学校を整備する基本方針を受け、学校単体で閉じるのではなく、**周辺公共施設との関係性・連携可能性**も含めて考える。
- あわせて、**将来の小学校再編の可能性**も見据え、今後の変化を受け止められる計画の骨格をつくる。



▲唐瀬原中学校



▲国光原中学校

高水準の公共施設を日常の学校活動に取り込む

- 計画地は、図書館、文化ホール、運動公園と近接し、学校活動を校外へ広げやすい立地である。
- そのため、新中学校は校舎内だけで機能を完結させるのではなく、**周辺公共施設を有効活用**しながら**学習・文化・運動の環境を広げる**考え方をとる。
- 周辺公共施設を有効活用することで、**学校活動の質を高める**だけでなく、**学校施設規模の縮小**や**建設コストの抑制**にもつなげる。
- 以降では、各施設が学校活動のどの場面を支えられるかを整理する。



▲サンA川南町文化ホール・図書館（トロントロンドーム）

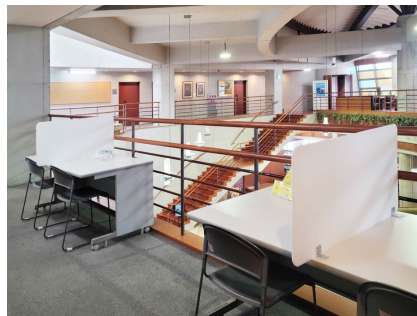


▲川南町運動公園

01 | 川南町立図書館



▲開架スペース



▲学習席



▲研修室



▲学習室



▲ミニシアター

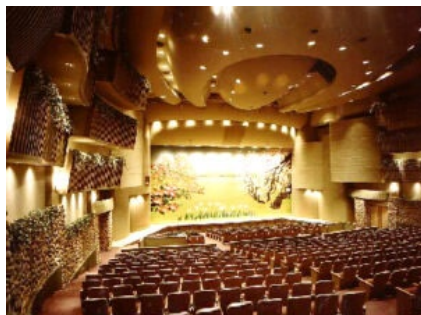


▲準備室

- 町立図書館は、蔵書を備えた閲覧機能だけでなく、学習・研修・発表の場を併せ持つ外部学習拠点としてのポテンシャルを持つ。
- 開架スペースは学校図書館機能を補完し、学習席や学習室は自習室・少人数教室の一部代替として使うことができる。
- また、研修室はグループ学習や会議等に、ミニシアターは視聴覚室の一部代替として活用できる。

図書館の室	学校活動での活用	補完・代替できる 学校機能
開架スペース	読書・調べ学習	図書室
学習室・学習席	自習・少人数学習	自習室・少人数教室
研修室	総合学習・会議	多目的室・会議室
ミニシアター	上映・発表	視聴覚室

02 | 川南町文化ホール

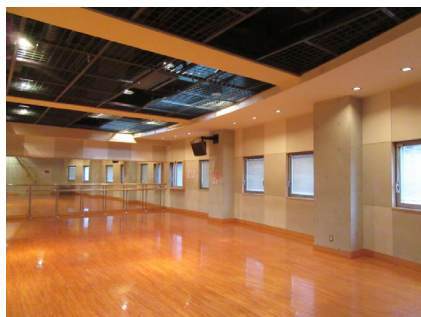


▲大ホール



▲楽屋（和室・洋室）

- 文化ホールは、大ホールを中心に、リハーサル室、研修室、和室などを備えた外部文化活動拠点としてのポテンシャルを持つ。
- 大ホールは、学校内では持ちにくい高水準の舞台音響設備があり、発表・集会機能を補完できる。
- また、リハーサル室は音楽・演劇・ダンス等の練習に、研修室はグループ学習等に、和室は作法学習や等で活用できる。



▲リハーサル室



▲和室



▲研修室・会議室



▲喫茶コーナー・厨房

文化ホールの室	学校活動での活用	補完・代替できる学校機能
大ホール	集会・発表会	講堂・体育館
リハーサル室	音楽・演劇・ダンス	音楽室・多目的室
研修室・会議室	グループ学習・会議	多目的室・会議室
和室	作法学習・部活動	茶室・和室

03 | 川南町運動公園



▲陸上競技場



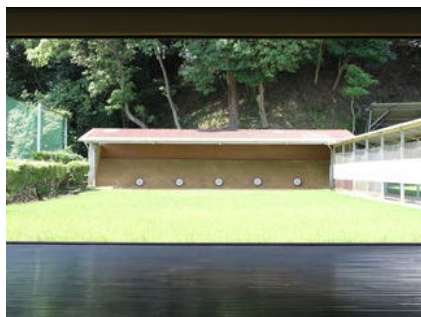
▲屋根付多目的運動場



▲野球場



▲テニスコート



▲弓道場



▲高森近隣公園

- 運動公園には、左記の施設があり、隣接する高森近隣公園も含めて多様な運動機能を備えている。
- これらは体育、学校行事、部活動、地域クラブ活動の場として活用でき、学校内だけでは確保しにくい運動機能を補うことが可能。
- 屋根付多目的運動場や高森近隣公園も使えることで、天候や活動種目に応じて柔軟に使い分けられる点で大きな利点である。

文化ホールの室	学校活動での活用	補完・代替できる学校機能
陸上競技場	体育・大会・部活	グラウンド
屋根付多目的運動場	雨天時練習・吹奏楽イベント	体育館・音楽室
テニスコート 弓道場	体育・部活	テニスコート 弓道場
高森近隣公園	サッカー・ラグビー 野球	グラウンド

01 | 教科教室型と将来の小中共用を前提に校舎内諸室を考える

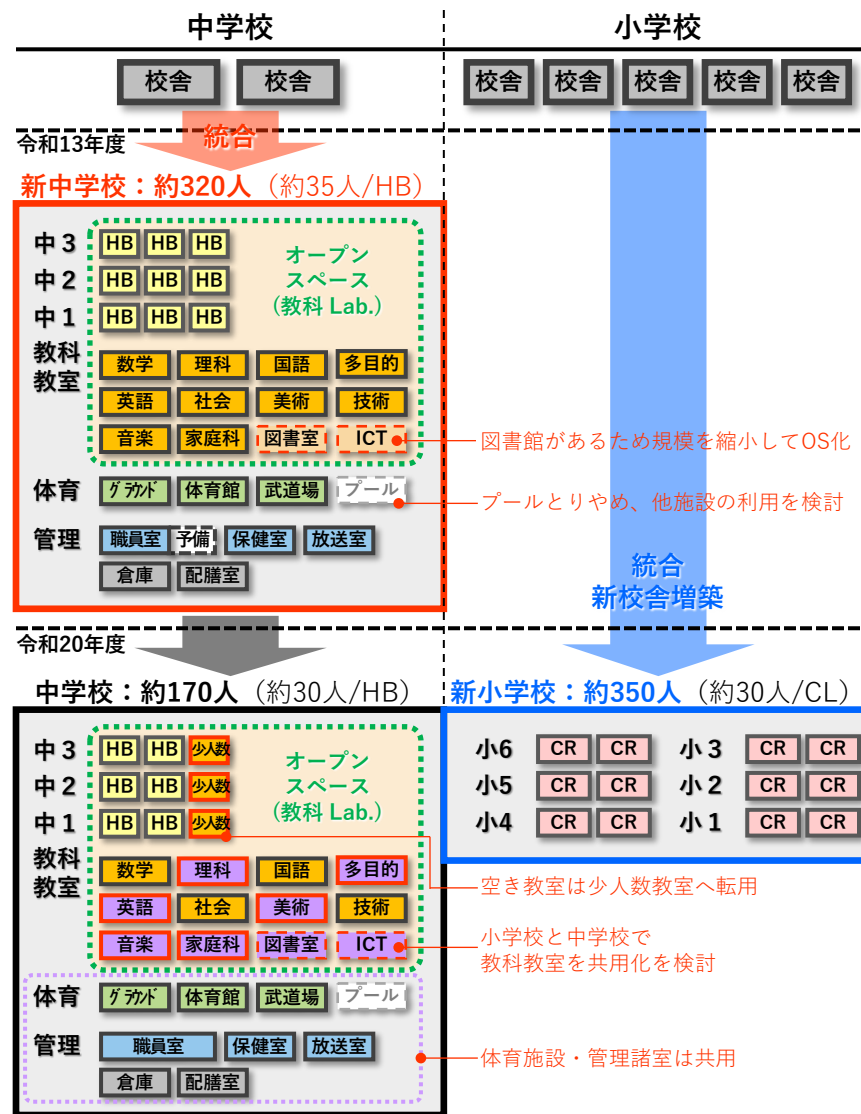
- 新中学校は、HB(ホームベース)を生活拠点とし、教科教室とOS(オープンスペース)を組み合わせる**教科教室型の運営を前提**とする。OSは、教科Lab.、図書、ICT、進路指導ラウンジ等を兼ねる場として考える。
- 一方、図書館・文化ホール・運動公園で補える機能は3-2で整理しているため、ここでは校舎内に持つべき諸室を中心に整理する。
- さらに、将来の小学校再編も見据え、調理室、総合学習ルーム、音楽室、美術・図工室、理科教室、英語教室、多目的教室など、**小学校と中学校で共用化できる教室群の可能性**もあわせて考える。



▲教科教室型の教科Lab.(オープンスペース)の事例 [邑南町立石見中学校]

02 | 生徒規模の変化に応じたHB・CR・共用教室の考え方

- 令和13年度の新中学校統合整備時は、約320人規模を想定し、HB(ホームベース) + 教科教室 + OS(オープンスペース)による教科教室型で構成する。
- 令和20年度の小学校再編時は、中学校約170人、小学校約350人を想定し、中学校HBと小学校CR(クラスルーム)の室数を組み替えながら、校舎全体を再編すると今回検討では仮定する。
- その際、教科教室は小中で可能な限り共用化を検討する。合わせて体育施設・管理諸室も可能な範囲で共用することで、将来の変化に対応しやすい構成とする。



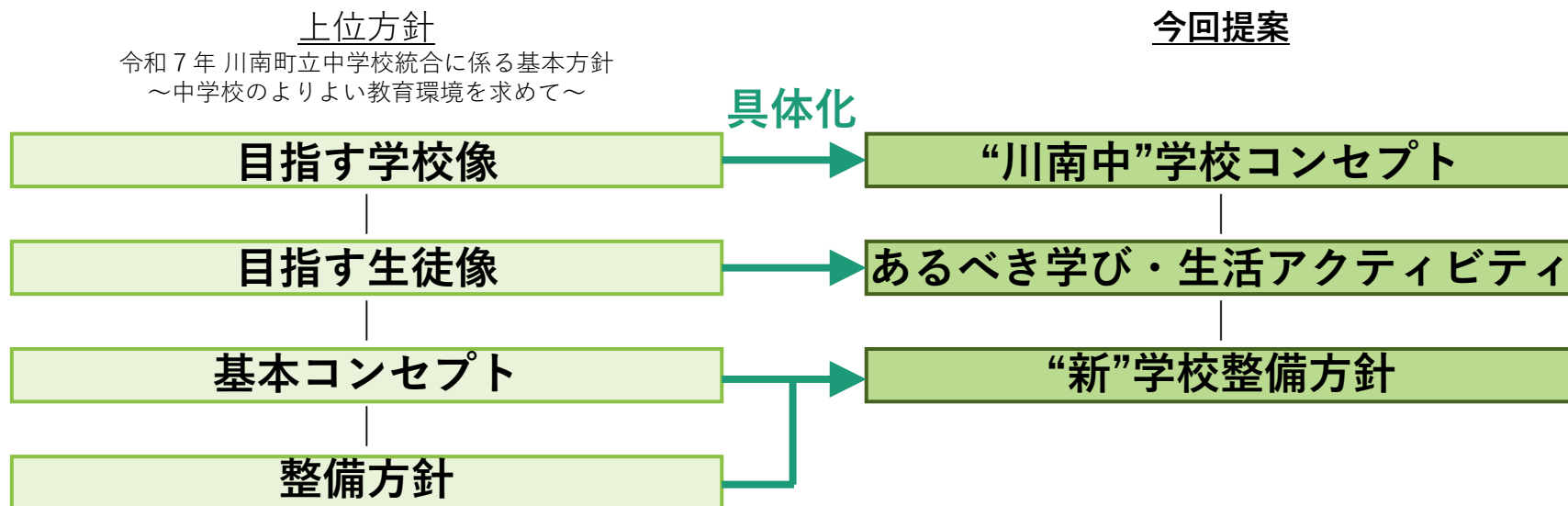
必要諸室	方針
一般教室（中学校）	
HB（ホームベース）	35人/HB×9、個人ロッカー
OS（オープンスペース）	教科Lab./図書室/ICT室 を兼ねる
特別支援教室	
CR（クラスルーム）	※周辺公共施設での対応も検討
OS（オープンスペース）	※同上
教科教室	
国語教室	
数学教室	
社会教室	
英語教室	
理科教室	
化学室	理科室で共用を検討
技術室	
調理室	
被覆室	
美術室	
音楽室	
ICT室	OSと統合・町立図書館での補完を検討
図書室	OSと統合・町立図書館での補完を検討
各準備室	
多目的室・少人数教室	周辺公共施設での補完を合わせて室数を検討

必要諸室	方針
体育施設	
体育館	周辺公共施設の活用も含め、規模を検討
武道場	周辺公共施設の活用も含め、規模を検討
グラウンド	周辺公共施設の活用も含め、規模を検討
プール・テニスコート	とりやめを検討
体育準備室	倉庫/更衣室/部室 等
管理諸室	
職員室	小学校再編時の拡大を含め、規模を検討
校長室、事務室 等	
保健室	
職員更衣室	
会議室	
相談室、進路指導室	
生徒会室	
放送室	
給食配膳室	
※：小中で共有化を検討	
必要諸室（増築分）	方針
一般教室（小学校）	
CR（クラスルーム）	35人/CR×12
ロッカースペース	
OS（オープンスペース）	

4. 新中学校の“新”学校整備方針

上位方針を読み解き、「“新”学校整備方針」に具体化する

- 本章では、「令和7年川南町立中学校の統合に係る基本方針」に示された目指す学校像・目指す生徒像・基本コンセプト・整備方針を読み解き、次章で示す施設計画案に即した「“川南中”学校コンセプト」、「あるべき学び・生活アクティビティ」、「“新”学校整備方針」へ具体化する。



新中学校＝まちの真ん中が、教室になる。「未来を拓く、川南キャンパス」

〔目指す学校像〕 ※令和 7 年 川南町立中学校の統合に係る基本方針～ 中学校のよりよい教育環境を求めて ～

- 川南町の豊かな地域資源を活かし、地域社会と連携しながら未来を創造する生徒を育む学校
- 生徒一人一人の個性と才能を尊重し、誰もが行きたくなるような魅力のある学校

“川南中”学校コンセプト

まちの真ん中が、教室になる「未来を拓く、川南キャンパス」

- 図書館・文化ホール・運動公園と連携し、多様な学びや活動が交わる、学校の中だけに閉じない、豊かな川南のまちを学習の舞台とした、キャンパスのような学校。
- 川南町の中心で多様な人と価値観が交わるこの場所を舞台に、自ら学びや居場所を選びながら、地域の未来を考え、行動する力を育む学校。

“こんなこと”が日常化する学校を計画する

〔目指す生徒像〕 ※令和7年 川南町立中学校の統合に係る基本方針～ 中学校のよりよい教育環境を求めて～

- 自分の個性や強みを理解し、主体的に行動できる生徒 ⇒1.
- 他者の意見を尊重し、協力しながら課題解決に取り組むことができる生徒 ⇒2.
- 変化の激しい社会を生き抜くための創造性と探究心をもつ生徒 ⇒3.
- ふるさと川南への愛着と誇りをもち、主体的に地域課題の解決を図ろうとする生徒 ⇒4.

あるべき学び・生活アクティビティ

1. 生徒一人ひとりが、自分に合った学び方や過ごし方を選び、教室だけでなくHBやOS、校内外の居場所を使い分けながら、自ら動き出す。
2. 学年やクラス、学校内外を越えて人と交わり、対話し、協力しながら、課題に向き合い、答えをつくっていく。
3. 調べ、考え、試し、まとめ、発表する学びを日常化し、自分の興味や問いを深めながら、新しい価値を生み出していく。
4. 学校の中だけで学びを完結させず、まちに出て地域を知り、地域の人と関わりながら、川南の未来を考え、行動へつなげていく。

01 | 「① 地域と共にある学校づくり」を実現する“新”学校整備方針 ①

〔基本コンセプト〕 ① 地域とともにある学校づくり

※令和7年 川南町立中学校の統合に係る基本方針～ 中学校のよりよい教育環境を求めて～

- 地域住民や保護者、企業、関係機関等の幅広い参画を得て、地域全体で生徒の学びや成長を支え、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働^③して行う地域学校協働活動の推進^①に努める。また、地域学校協働活動本部を新中学校内に設置し、役場、福祉センター、保健センター、商工会等との連携強化を図るとともに、保育所との異年齢交流^②を推進するなど、ふるさと教育、キャリア教育の一層の推進を図る。
- 学校運営協議会において、地域住民や保護者の参画を得ながら、学校運営の工夫・改善や学校支援の充実、地域ぐるみでの教育的課題の解決など、より一層の取組の充実を図る。

“新”学校整備方針 ①

1. 川南をつなぐ南北の「学びの軸」に、まちにひらく交流・協働機能を並べる

2. 公共施設群と日常的に往来する学びのネットワークをつくる

3. “岬”の地形を活かした、まちにひらく場と学校専用の場のゾーニング

01 | 「① 川南を南北に結び、まちと学校をつなぐ「学びの軸」」

“新”学校整備方針 ①

1. 川南を南北に結ぶ「学びの軸」に、まちにひらく交流・協働機能を並べる

- まちなか・図書館・文化ホールからアクセスしやすく、唐瀬原と国光原を結ぶ南北の軸線上に、生徒の活気がまちへ表出する地域交流・協働の機能を配置する。
- この軸を、学校内の動線であると同時に、まちと接続する学びと交流の骨格とし、川南の中心にふさわしい学校の構えをつくる。

2. 公共施設群と日常的に往来する学びのネットワークをつくる

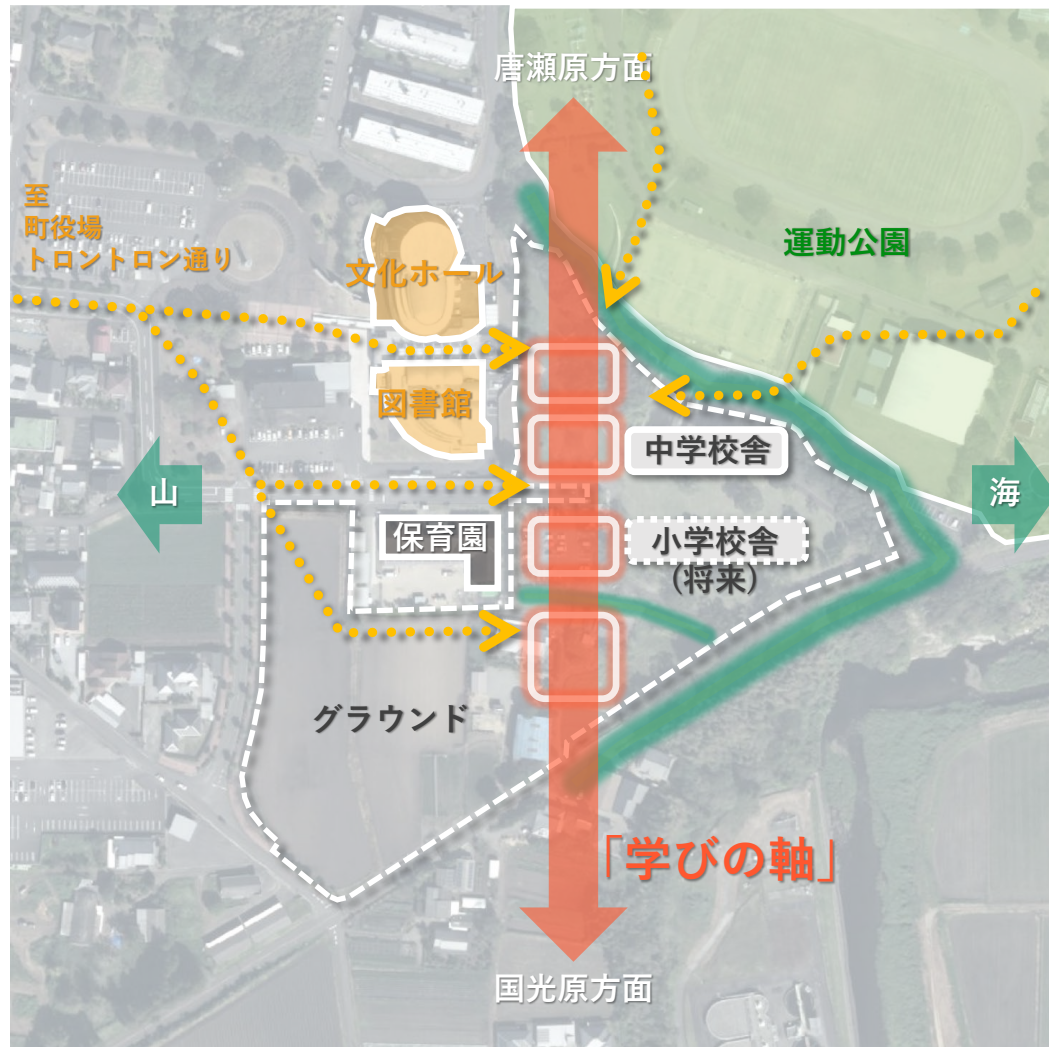
- この配置計画により、図書館・文化ホール・運動公園へのアクセス性を高め、学校の中だけで完結しない生活・学習・発表・活動を日常的に展開しやすい環境を整える。
- 学校を周辺公共施設群と連続した学びの拠点として捉えることで、川南のまちづくりや地域活動とも関わり続けるネットワークの一部として位置づける。

3. “岬”の地形を活かした、まちにひらく場と学校専用の場のゾーニング

- 山(西)から海(東)へ向く“岬”の地形を活かし、地域協働や来客利用に開く場と、生徒が安心して日常を過ごす学校専用の場をゾーニングすることで、地域利用と学校運営が無理なく両立する構成をつくる。
- 出入口、管理区画、共用諸室の配置を工夫することで、まちにひらきながらも守るべき領域を明確にし、学校と地域が持続的に関われる環境を整える。

01 | ① 川南を南北に結び、まちと学校をつなぐ「学びの軸」

“新”学校整備方針 ①



02 | 「② 活力ある学校環境づくり」を実現する“新”学校整備方針 ②

[基本コンセプト] ② 活力ある学校環境づくり

※令和7年 川南町立中学校の統合に係る基本方針～ 中学校のよりよい教育環境を求めて～

- 生徒が相互に刺激し合うことにより、学級や学年の活気を引き出す。クラス替えができる複数クラスで、学級間の協力や切磋琢磨する意識を育て、活力ある学校をつくる。
- 生徒が様々な友達と触れ合うことで、人間関係を豊かにするとともに、一人一人のコミュニケーション能力を育み、社会の中で生き抜く力を身に付ける。
- 体育大会や文化祭などの学校行事をより多くの生徒で行うことによって行事の活性化を図る。また、一定数の集団を必要とする音楽の合唱・合奏、保健体育などの学習の充実を図る。

“新”学校整備方針 ②

1. 学級・学年がゆるやかにつながる教室構成
2. 多様な出会いと交流を受け止める日常空間
3. 分散する学びをつなぎ、多くの生徒が集まる場
4. 地面に近い二層校舎で、活動を外へひらく

02 | 「② 分散と集合をつなぎ、活気を生む2階建て校舎」

“新”学校整備方針 ②

1. 学級・学年がゆるやかにつながる教室構成

- 同学年のHB、教科教室、オープンスペースを近接して配置し、学級を越えて互いの気配や活動が感じられる教室構成をつくる。
- 学級ごとに閉じすぎない環境を整えることで、学年全体の活気を引き出し、協力や切磋琢磨が自然に生まれる学校生活を支える。

2. 多様な出会いと交流を受け止める日常空間

- オープンスペースや少人数教室を各所に設けることで、一人で落ち着ける場から小集団で対話できる場まで、多様なスケールの居場所を校内に確保する。
- 図書館や運動公園へ向かう動線、テラスや中庭などの屋外空間、昇降口も含め、校内外のあらゆる場所が出会いと交流の場となるような環境を整える。

3. 分散する学びをつなぎ、多くの生徒が集まる場

- 教科教室型により日常の学びや居場所が分散するからこそ、総合学習、音楽、給食、学校行事などで一定数の生徒が集まる場を意図的に確保するとともに、周辺公共施設を連携させ、多人数で学ぶ・表現する・盛り上がる活動を支える環境を整える。

4. 地面に近い二層校舎で、活動を外へひらき、自然と調和する

- 校舎を低層化（2階建て）することで、教室から地上や外部空間へアプローチしやすくし、学びや交流、活動の場を校舎内だけでなく屋外へも広げる。
- 岬の高台ならではの広い空、見通しの良さ、日当たりの良さを活かしながら、ボリューム感を抑えて景観を遮らず、周辺環境の豊かな既存の緑とも調和する校舎を目指す。

03 | 「③ 全ての生徒にとって過ごしやすい安心な学校環境づくり」を実現する“新”学校整備方針 ③

〔基本コンセプト〕 ③ 全ての生徒にとって過ごしやすい安心な学校環境づくり

※令和7年 川南町立中学校の統合に係る基本方針～ 中学校のよりよい教育環境を求めて ～

- 全ての生徒にとってやさしい学校を目指し、バリアフリーやユニバーサルデザイン*を取り入れ、過ごしやすい環境づくりを行う。^{②③}^①
- 校内教育支援センターや生徒用のカウンセリング室を配置するなど、不登校やいじめ等の悩みや不安をもつ生徒の心のケアへの適切な対応や支援体制を強化する。^②



“新”学校整備方針 ③

1. 誰もが気兼ねなく過ごせる生活環境を整える
2. 学内外に寄り添いの居場所と支援の場を重ねる
3. 光と風が溢れ、自然のリズムに寄り添う学び舎

03 | 「③心身のコンディション・健康を支える様々な居場所」

“新”学校整備方針 ③

1. 誰もが気兼ねなく過ごせる生活環境を整える

- 明快な平面構成と動線、視認しやすく親しみがあるサイン、EVやスロープによる適切な段差解消設計を通し、身体状況や特性に関わらず、**誰もが安心して過ごせるバリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮した環境を整える。**
- **トイレは、人の目が気にならず使える個の安心を確保しつつ、手洗い場等は開かれた交流の場**となるよう計画し、プライバシー確保とコミュニティ形成が両立する空間を目指す。

2. 学内外に寄り添いの居場所と支援の場を重ねる

- 校内教育支援センターやカウンセリング室に加え、図書館や文化ホールの諸室などの活用も検討し、**学校から少し距離を置いて過ごせる複数の居場所と支援の場を校内外に重ねて確保する。**
- 不登校生徒への支援にとどまらず、**その日の心身のコンディションや学び方に応じて自分で居場所を選べる環境を整え、教職員や図書館司書等とも連携しながら、見守り・対話・学習支援の幅を広げる。**

3. 光と風が溢れ、自然のリズムに寄り添う学び舎

- 川南の風や光の特性を読み取り、自然通風と自然採光を計画に積極的に取り入れることで、**学校内に自然の風と光が行き渡り、心身の健康を支える校舎を目指す。**
- あわせて、高断熱化、日射遮蔽、LED照明、太陽光発電、緑化などの環境配慮を組み合わせ、**自然の力を活かしながら負荷を抑えるエコスクールを目指す。**

04 | 「④ 学力向上の充実を図る教育環境づくり」を実現する “新”学校整備方針 ④

[基本コンセプト] ④ 学力向上の充実を図る教育環境づくり

※令和7年 川南町立中学校の統合に係る基本方針～ 中学校のよりよい教育環境を求めて～

- 各教科が専門教員によって授業^①ができるように、適切な教員数が配置される学校とする。適切な教員数の確保により、日常的な教員研修の機会が増えることで、より質の高い授業^①ができるようになる。
- 適切な生徒数の集団^②により、互いに学び合い、多様な考え方に触れる機会を多く設け、思考を深める授業^②を行う。また、単元内自由進度学習やICTを活用した学習^③を取り入れ、生徒一人一人の長所を伸ばす授業を行う。さらに、複数の教員を配置することでクラスを再編成し指導^③の個別化を図るなど柔軟な指導形態をとることができるようにする。

“新”学校整備方針 ④

1. HBに近接した教科拠点で、教科の学びを深める環境をつくる
2. 多様なスタイルに応える、可変的な学習空間をつくる
3. 自分に合った学び方を選べる、個別最適な学習環境をつくる

04 | 「④教科教室型を活かし、変化する学びに応える学習環境」

“新”学校整備方針 ④

1. 教科の専門性を高め、学びを深める、HBに近接した教科拠点

- HBに近接して、授業の専門性を高める「**教科教室**」、授業の成果物や関連資料が展開され日常的な居場所となる「**教科Lab.**」、専任教員が常駐し、教材研究や指導方針の共有を図る「**教科準備室**」を一体配置することで、**教科ごとの学びが蓄積し深まる教科拠点を**つくる。
- 類似科目ごとに教科拠点をまとめることで、**科目横断による多様な考え方との接触や、教員・生徒双方の学び合い**が自然と生まれる構成とする。

2. 多様な授業スタイルに応える、可変的な学習空間

- 授業規模や学習形態、生徒数に応じて、**教科教室、オープンスペース、少人数教室を使い分ける**ことで、一斉授業から対話、グループ学習、発表、振り返りまで柔軟に対応できる構成とする。
- 多様な授業スタイルに対応できる空間を整えることで、生徒同士が学び合い、多様な考え方に触れながら思考を深められる環境を整える。

3. 自分に合った学び方を選べる、個別最適な学習環境

- HBを生活拠点としながら、**教科Lab.、少人数教室、支援の場へ自分でアクセスできる構成**とし、その日の理解度や心身の状態に応じて学び方を選べる環境を整える。
- **単元内自由進度学習やICT活用**、クラス再編成や複数教員による指導にも対応できるよう、**生徒一人ひとりの学びを支える個別最適な環境をつくる。**

05 | 「⑤ 多様化する社会に対応する学習環境づくり」を実現する “新”学校整備方針 ⑤

[基本コンセプト] ⑤ 多様化する社会に対応する学習環境づくり

※令和7年 川南町立中学校の統合に係る基本方針～ 中学校のよりよい教育環境を求めて～

- 町の歴史、文化、産業、自然などをテーマにした探究学習を各学年で実施する。地域の人々との交流や現地調査、町立図書館の豊富な蔵書の活用等を通じた探究学習を展開することで、地域への理解を深め、課題発見・解決能力や協働性を育成する。^①^②
- 特別支援教育を充実させるために、施設の整備や専門職の配置など、どの子どもも安心して学べる学習環境づくりを目指す。特に共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育*の充実を図る。^①
- ICTを活用して、情報を収集し、整理・分析し、発信する能力を育成するとともに、情報モラルや情報セキュリティに関する教育を徹底し、責任ある情報社会の担い手の育成を目指すことができる学習環境づくりを進める。^②

“新”学校整備方針 ⑤

1. 地域と協働し、かわみなみの未来を考える総合学習の場

2. 図書とICTをつなぎ、かわみなみの未来の探求を指せる情報拠点

05 | 「⑤地域と未来を探究する総合学習の場」

“新”学校整備方針 ⑤

1. 地域と協働し、かわみなみの未来を考える総合学習の場

- 地域の実務者や専門家を外部講師として招き、全体講義やグループ学習等を柔軟に切り替えられ、複数学級合同で集まれる、**総合学習に特化した室**を設けることで、**地域を題材にした探究や対話、協働の学び**を日常的に展開できる環境を整える。
- **総合学習室は調理室や技術室等と隣接させ、調査・構想・制作・発表までが連続する構成**とすることで、**学校の内外をつなぐ、まちに開かれた学びの拠点**として検討する。

2. 図書とICTをつなぎ、かわみなみの未来への探究を支える情報拠点

- 校内の**図書スペースとICT環境を総合学習の拠点と連携**させ、情報収集・整理・分析・発信までを一連の流れとして支える学習環境を整える。
- あわせて、**町立図書館とのアクセス性**も活かし、学校内だけでは不足しがちな**蔵書や資料、学習機能を補完**することで、より厚みのある探究学習を支える。

06 | 「⑥ 健全な心身を育む部活動・地域クラブが展開できる環境づくり」 を実現する“新”学校整備方針 ⑥

〔基本コンセプト〕 ⑥ 健全な心身を育む部活動・地域クラブが展開できる環境づくり

※令和7年 川南町立中学校の統合に係る基本方針～ 中学校のよりよい教育環境を求めて ～

- 可能な限り部活動を多く設置し、学校敷地内で活動できる施設を整える。^① また、より適切な指導ができるよう 部活動指導員や外部指導者の配置に努める。^②
- 文化ホールや総合運動公園を有効活用するなど、隣接する公共施設との連携^②による川南町ならではの特色ある部活動・地域クラブを展開し、^②新たな魅力発信に努める。



“新”学校整備方針 ⑥

1. 体育館とグラウンドが一体活用できる校内運動環境
2. 運動公園と日常がつながり、活動が外へ広がる環境

06 | 「⑥校内外の運動環境をつなぎ、活気ある活動を支える」

“新”学校整備方針 ⑥

1. 体育館とグラウンドが一体活用できる校内運動環境

- グラウンドを整備する低いレベルに体育館を配置することで、体育館とグラウンドの行き来や連携をしやすくし、体育授業、部活動、学校行事が連続して展開できる運動環境を整える。
- また、高台との約7mの高低差を活かし、体育館の最高高さを下げることで、高台から飛び出すボリューム感・圧迫感を軽減し、景観への影響を抑えながら、大きな気積を必要とする様々なスポーツが可能な高水準の体育館を計画する。

2. 運動公園と日常がつながり、活動を外へ広げる

- 部活動が盛んな中学校と運動公園へのアクセス性を重視した配置とし、体育授業や部活動で日常的に活発な利用ができる関係をつくる。
- 運動公園側にテラスを設け、運動公園へのアプローチ空間となると共に、日常の生徒活動や交流、体育や部活動の準備運動にも使える場とすることで、休み時間や放課後に生徒が集まる活気ある外部空間を整える。

07 | 「⑦ 安全に通学できる地域環境づくり」を実現する “新”学校整備方針 ⑦

〔基本コンセプト〕 ⑦ 安全に通学できる地域環境づくり

※令和7年 川南町立中学校の統合に係る基本方針～ 中学校のよりよい教育環境を求めて～

- 徒歩や自転車での安心安全な通学^①ができるよう、通学ルートを考慮^①した上で通学路や歩道等を整備する。
- 遠距離通学の生徒に対しては、スクールバスを運行するなどの交通環境の整備^②に努める。



“新”学校整備方針 ⑦

1. 朝夕の結節点となる「トントロンターミナル」を学校の中心につくる
2. 徒歩・自転車・バスを分け、安全にアクセスできる通学環境を整える

07 | 「⑦学校とまちの結節点と朝夕の結節点を重ねる」

“新”学校整備方針 ⑦

1. 朝夕の結節点となる「トロントロンターミナル」を学校の中心につくる

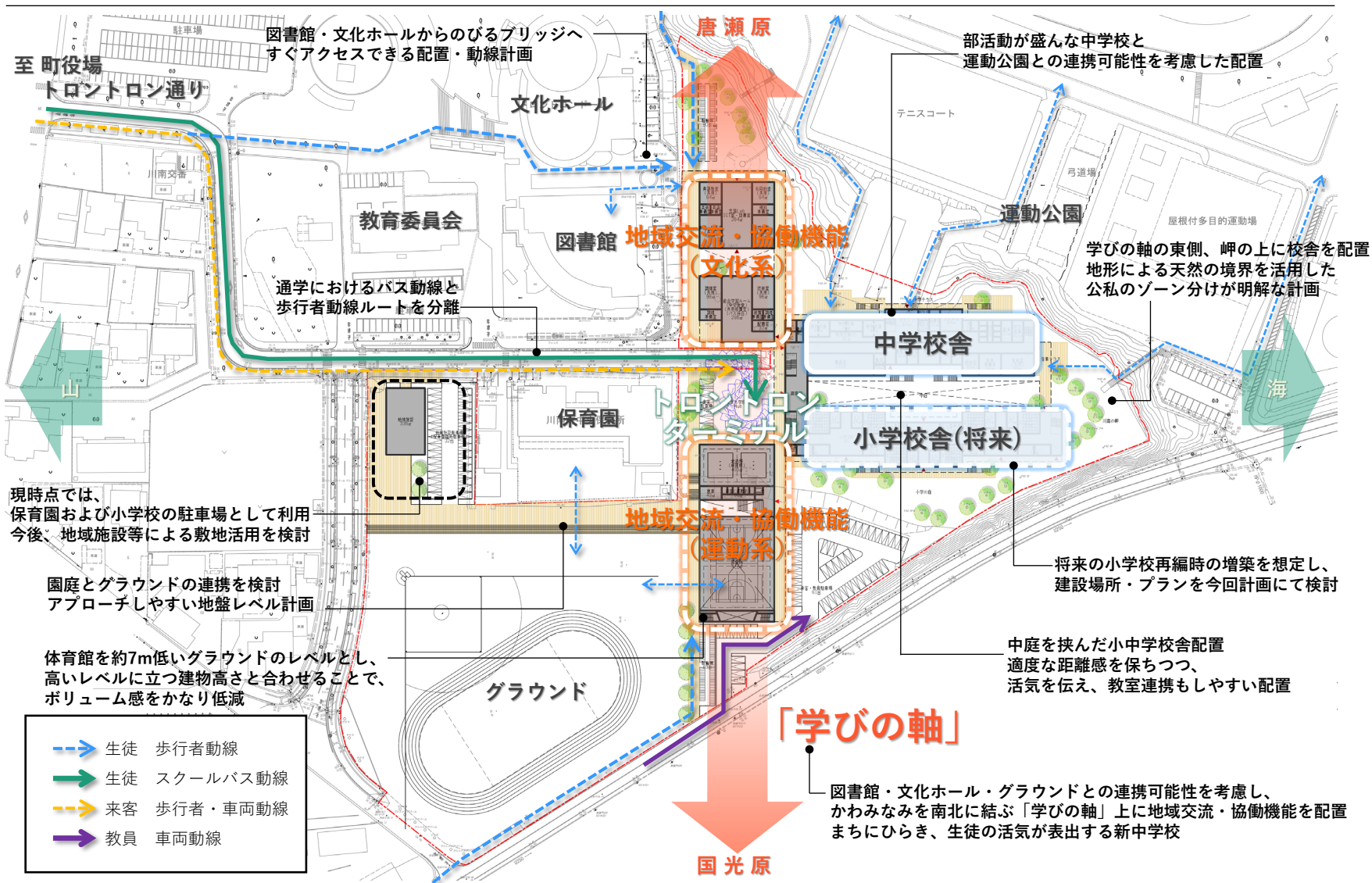
- 朝夕に多くの生徒が集まる昇降口を学校の中心に設け、スクールバスの乗降所、待合機能、多目的に利用できる空間を隣接させることで、生徒が一堂に会する登下校の時間を学校生活の重要な時間として位置づける。
- この空間は、外部からの入口ともなる「トロントロンターミナル」として計画し、まちへと開き、学校と地域をつなぐ結節点となる環境を整える。

2. 徒歩・自転車・バスを分け、安全にアクセスできる通学環境を整える

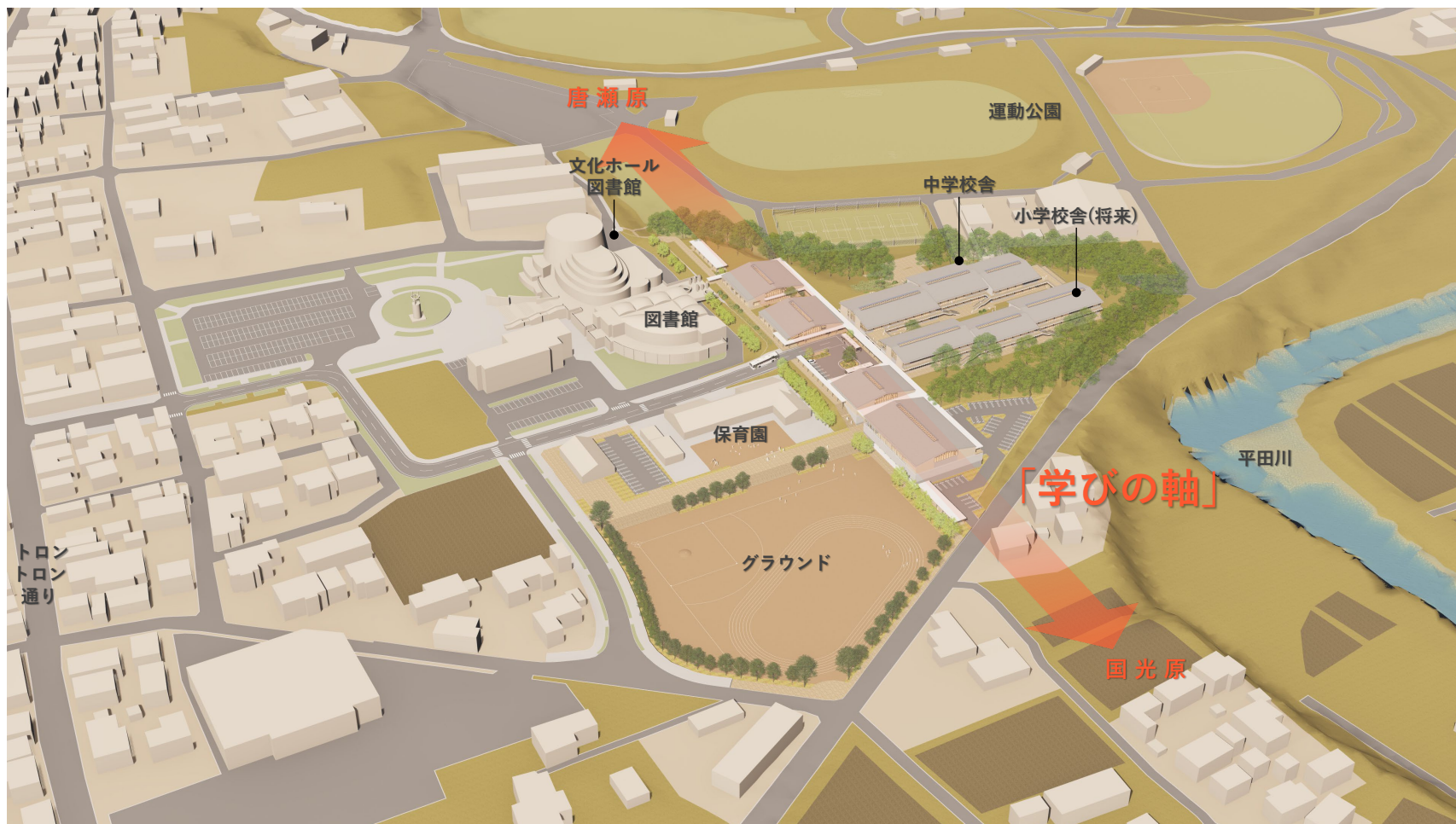
- 「トロントロンターミナル」を挟んで、北の唐瀬原方面と南の国光原方面に学校の入口を設け、バス交通の要所と分離した歩行者・自転車の安全なアプローチを計画する。
- 2つの元中学校区からの登下校のしやすさを確保するとともに、通学手段ごとの動線を整理することで、安心して通える通学環境を整える。

5. 施設計画

「未来を拓く、川南キャンパス」の全体像

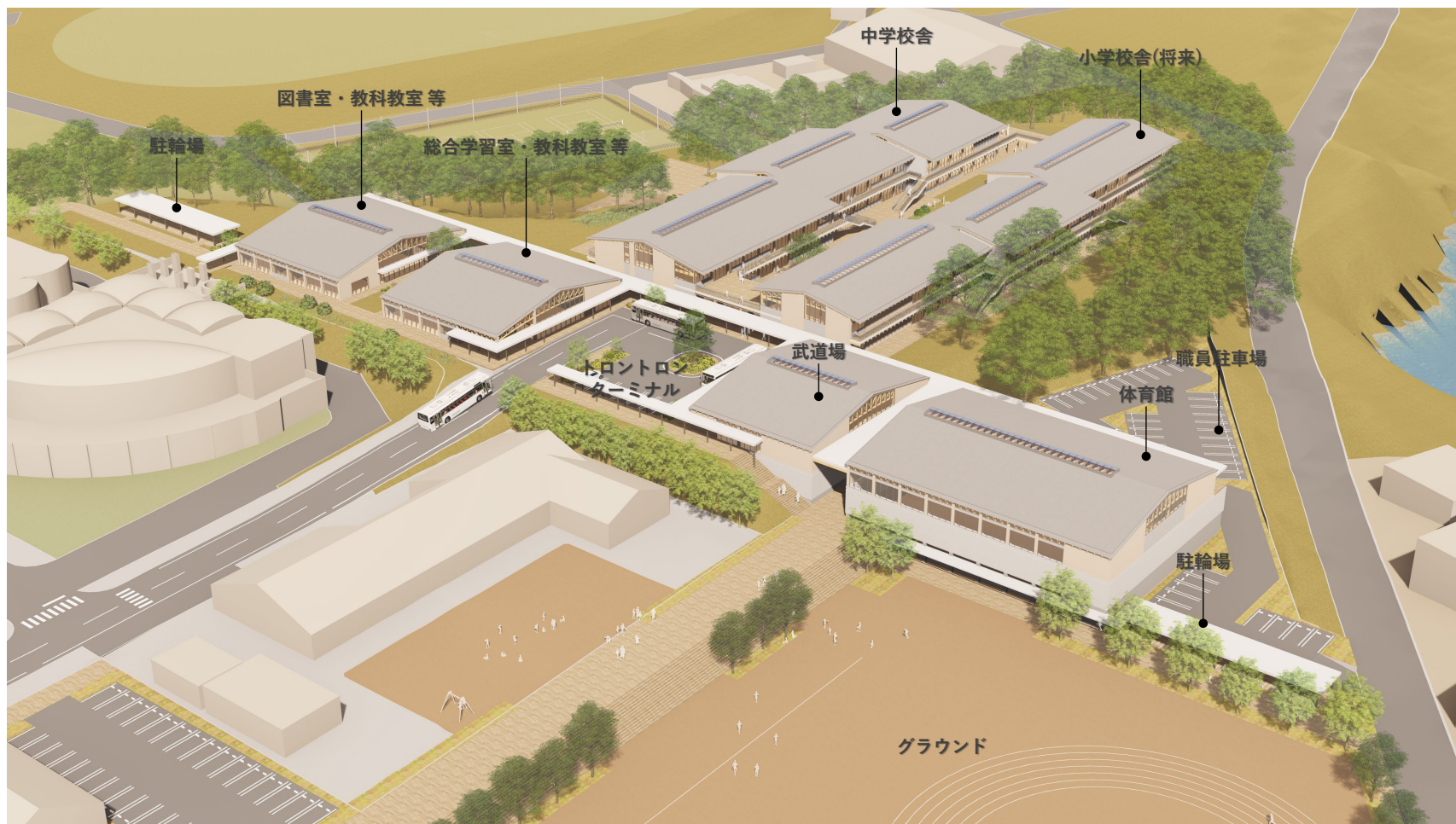


「川南キャンパス」を空から見る



■鳥瞰パース（南側より）

「川南キャンパス」を空から見る



■鳥瞰パース（南西側より）

「川南キャンパス」を空から見る



■鳥瞰パース（北西側より）

「川南キャンパス」を空から見る



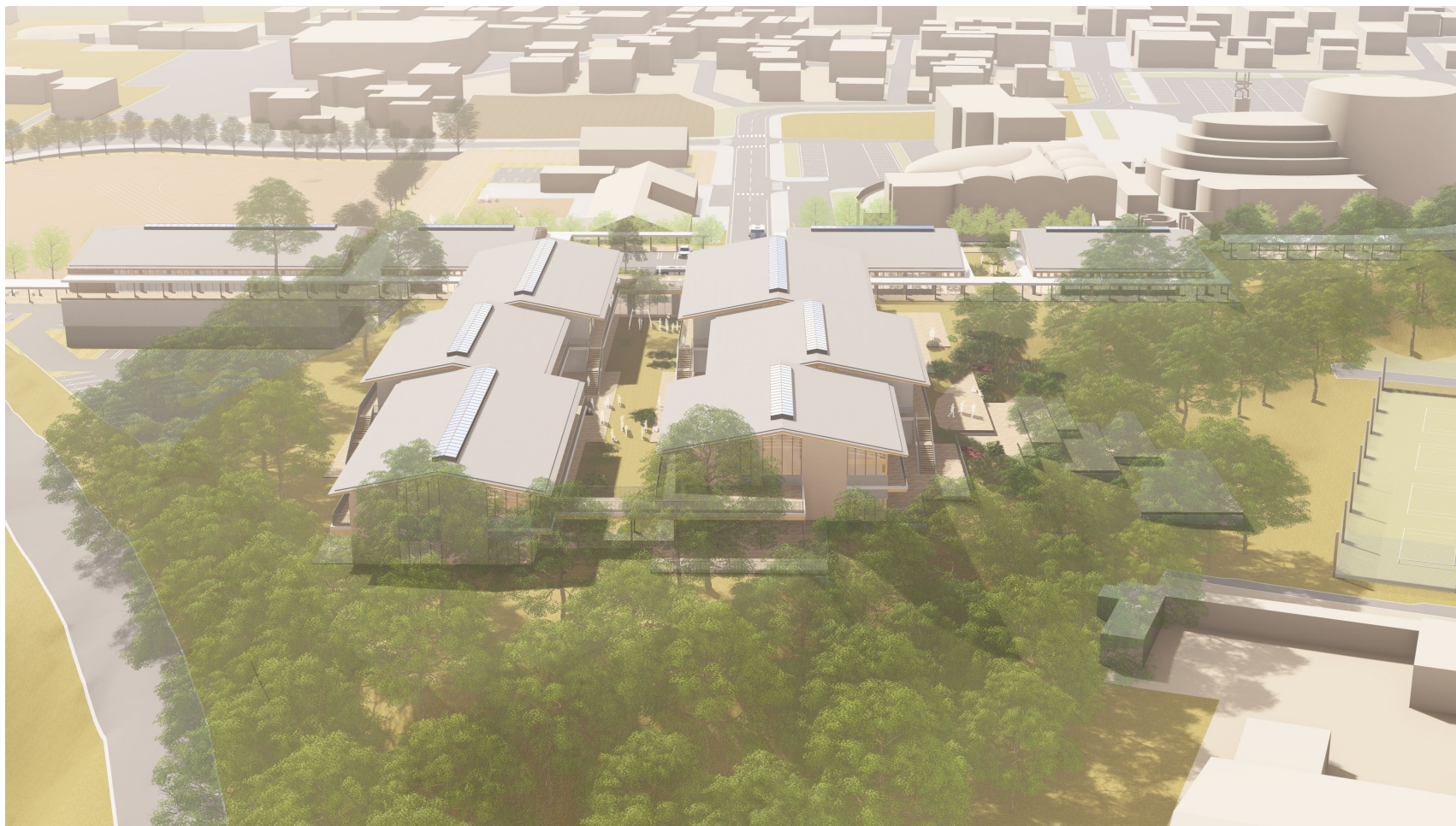
■鳥瞰パース（トロントロンターミナル）

「川南キャンパス」を空から見る



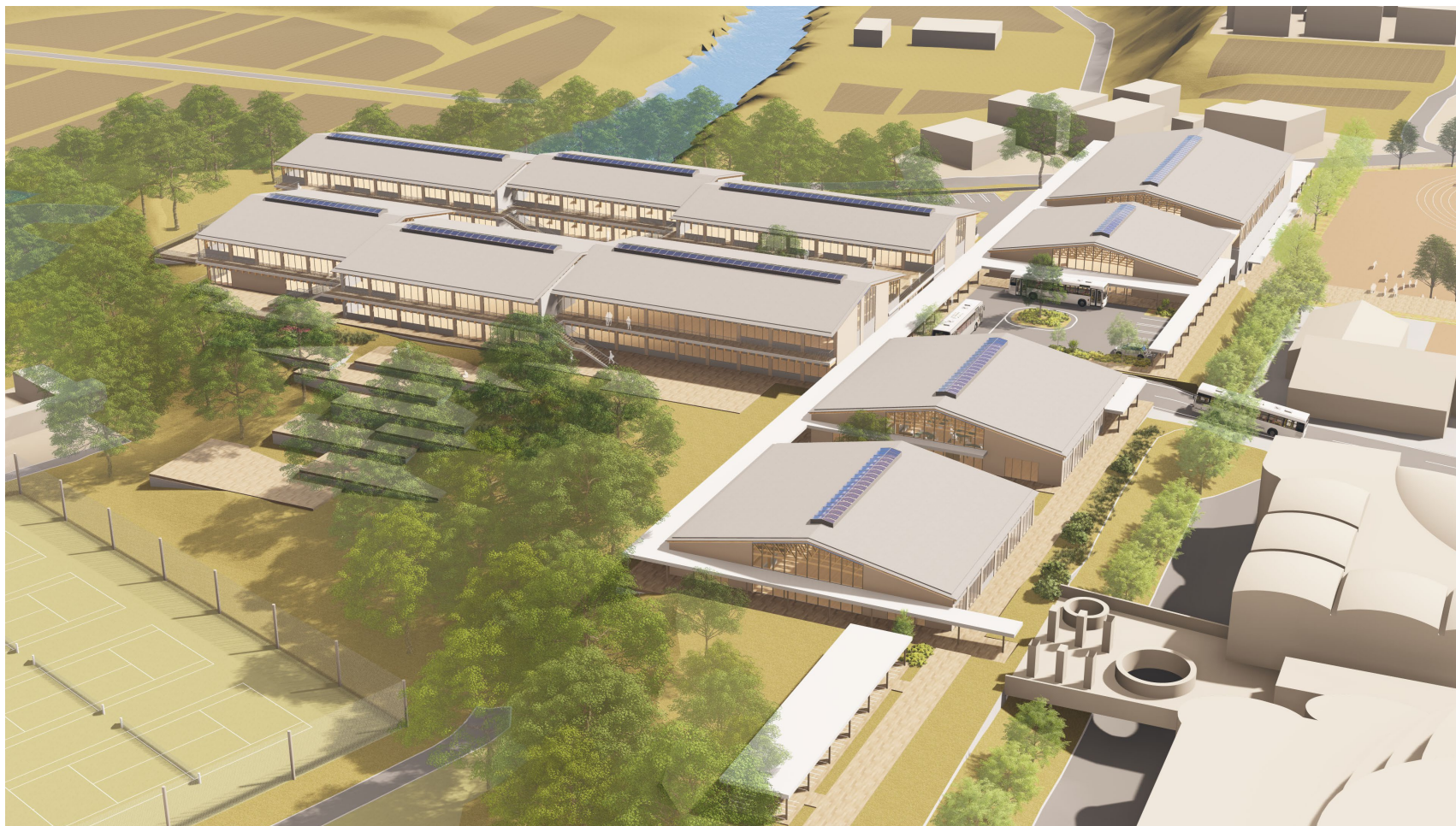
■鳥瞰パース（南東側より）

「川南キャンパス」を空から見る



■鳥瞰パース（東側より）

「川南キャンパス」を空から見る

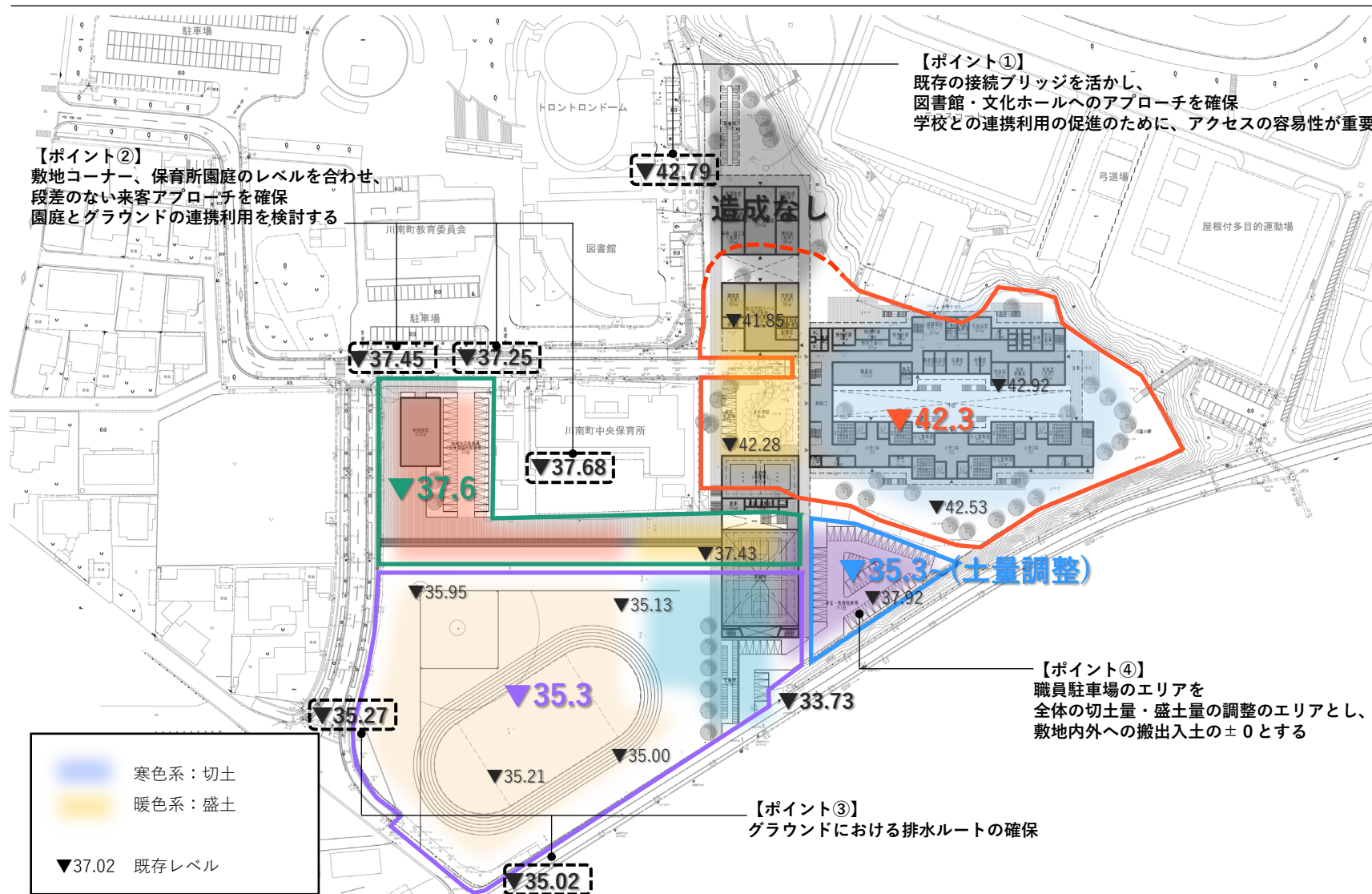


■鳥瞰パース（北側より）

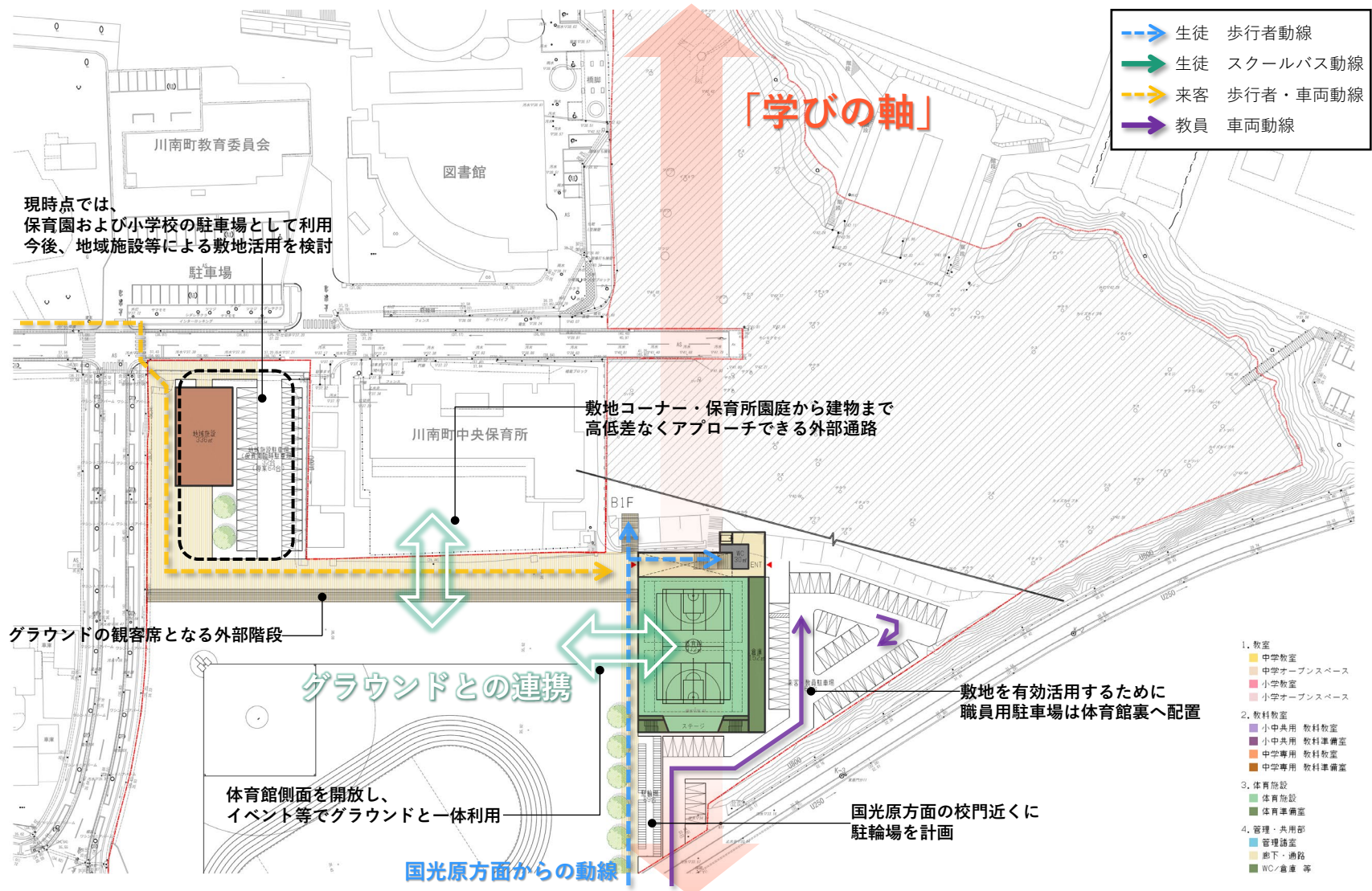
平田川がつくった地形に逆らわず、地形を活かす

- 川南の骨格を形作る2つの台地を分ける平田川がつくった**敷地の地形・高低差を尊重**し、極力、**地形をいじらない**（造成しない）**計画**とする。
- コストが大きい敷地からの**搬出入土の±0**となるような敷地造成計画を検討する。
- 加えて、学校校舎本体への投資を最大化するために、**掘削量・盛土量を極力減らし**、造成工事にかかるコスト縮小を検討する。

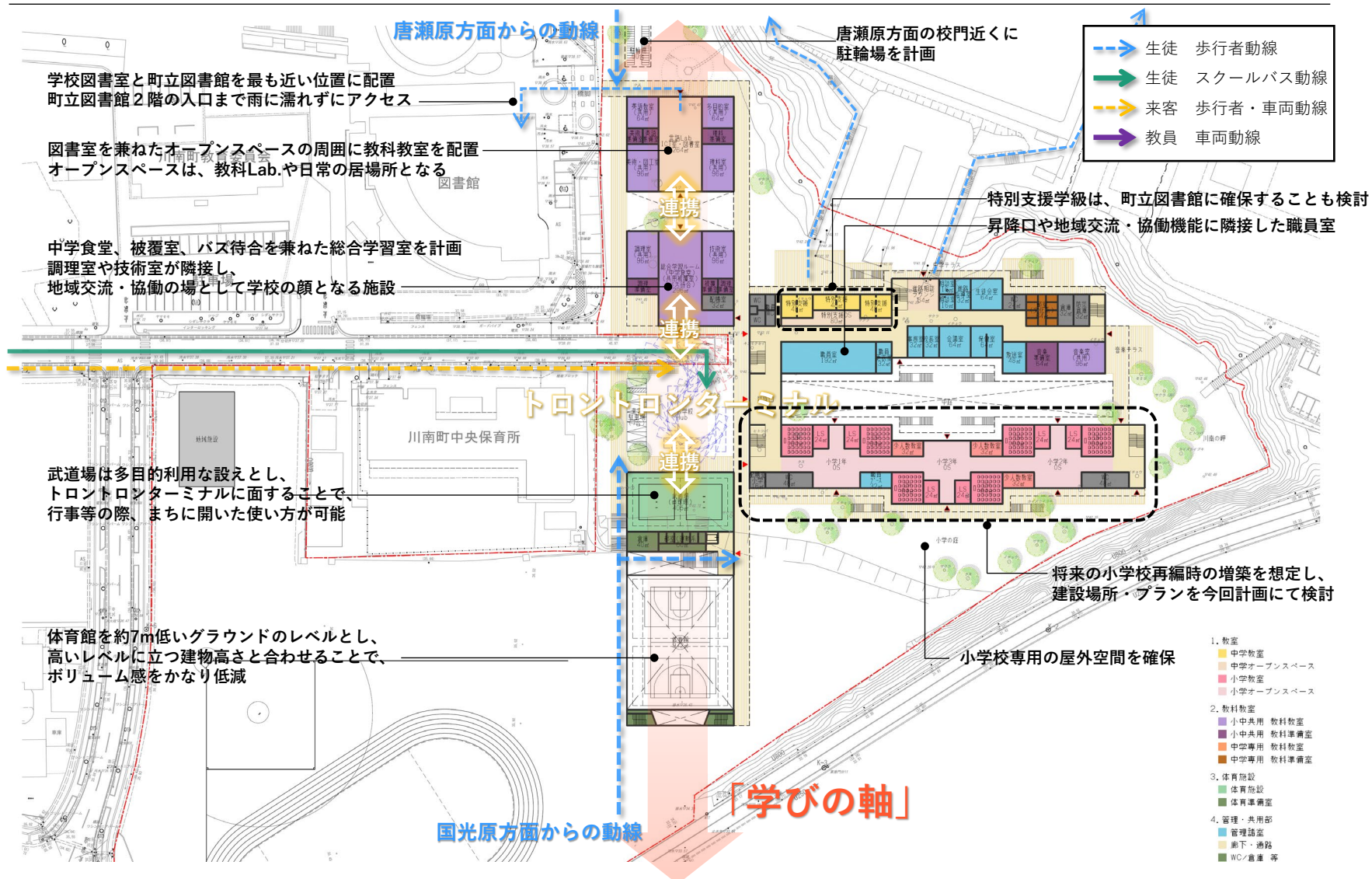
敷地全体の盛土・切土の考え方



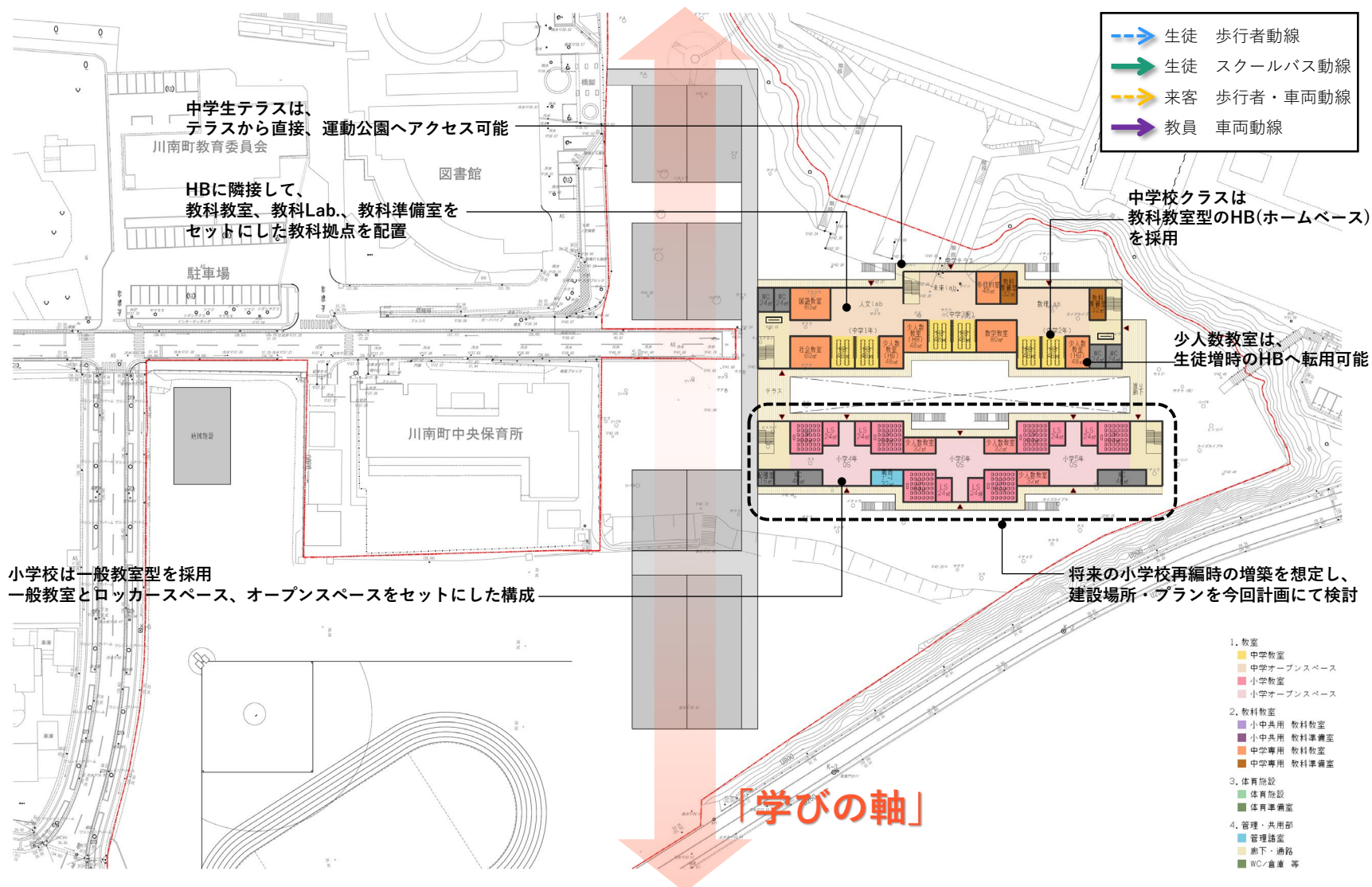
グラウンドレベル(地下1階) 平面計画



1階 平面計画



2階 平面計画



まちと学校・朝と夕の結節点「トロントロンターミナル」



■トロントロンターミナル（俯瞰）

まちと学校・朝と夕の結節点「トロントロンターミナル」



■トロントロンターミナル・昇降口（アイレベル）

海と山をつなぐ軸線、トロントロンターミナル-昇降口-中庭の連続性



■トロントロンターミナル・中庭（俯瞰）

学校の顔となる「トロントロンターミナル」



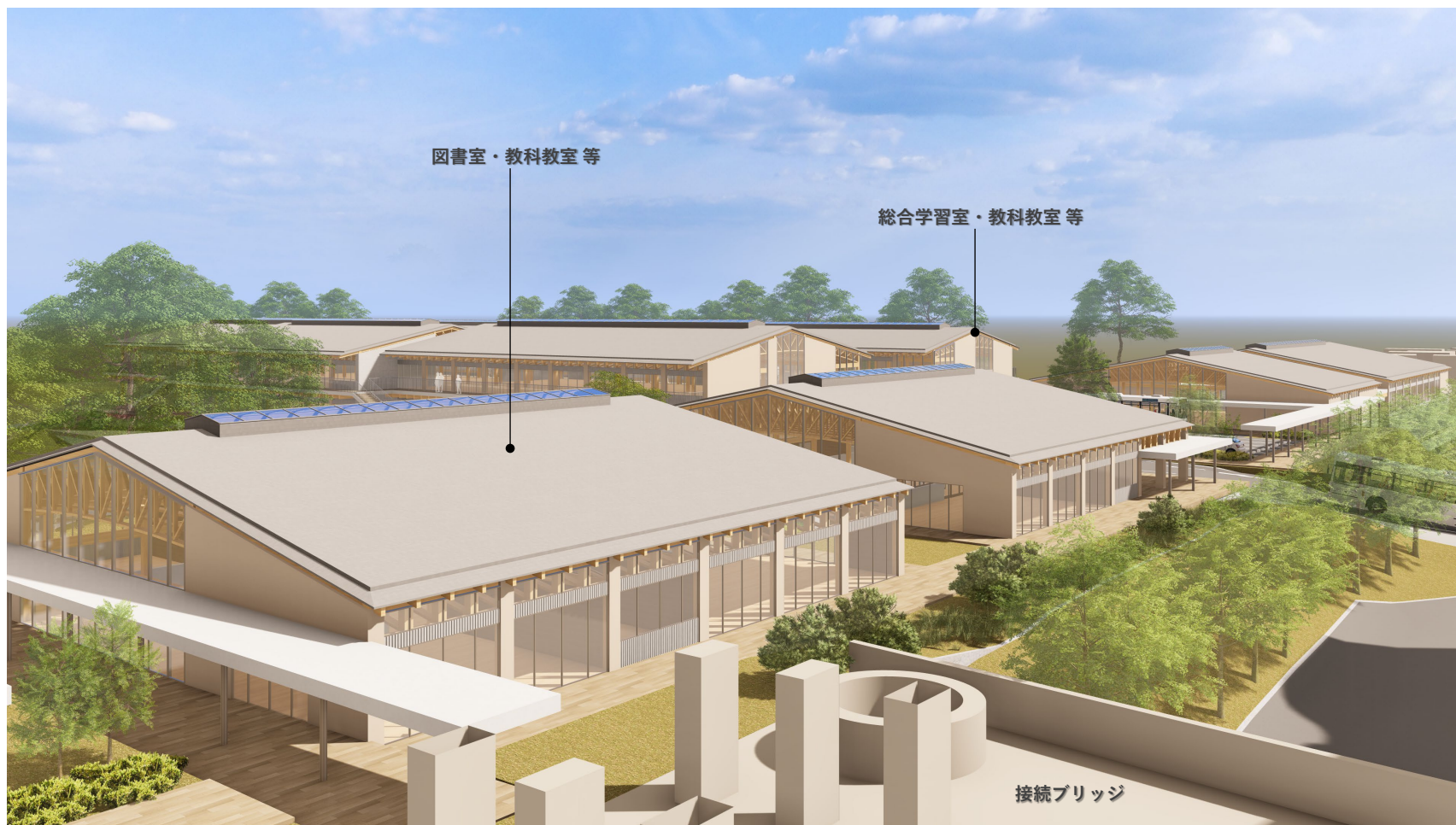
■トロントロンターミナル（アイレベル）

学校の顔となる「トロントロンターミナル」



■トロントロンターミナル（アイレベル）

町立図書館・文化ホールとの連携



■町立図書館・文化ホールより（俯瞰）

地形を活かし、高さを抑えた体育館ボリューム



■グラウンドより（アイレベル）

体育館・グラウンド・保育園との連携



■グラウンドより（俯瞰）

小学校再編を見据えた教科教室の共用化、周辺施設利用による工夫

中学校 必要諸室	面積	備考
一般教室（中学校）	1,328㎡	
HB（ホームベース）	228㎡	2 教室/1 学年×3 学年
OS（オープンスペース）	776㎡	教科Lab./中学OS/進路指導ラウンジ
特別支援教室	224㎡	
CR（クラスルーム）	114㎡	
OS（オープンスペース）	80㎡	
教科教室	1,860㎡	
国語教室	80㎡	
数学教室	80㎡	
社会教室	80㎡	
英語教室	96㎡	小中学校で共用化
理科教室	96㎡	小中学校で共用化
技術室	96㎡	小中学校で共用化
調理室	96㎡	小中学校で共用化
被覆室 ⇒ 総合学習室	276㎡	被覆室/中学食堂/バス待合を兼用
美術室	96㎡	図工室(小学校)を兼ねる
音楽室	96㎡	小中学校で共用化
ICT室	- ㎡	図書室と統合
図書室	264㎡	町立図書館の補完によるOS化
教科準備室	320㎡	
多目的室・少人数教室	384㎡	少人数教室×3はHBの予備
体育施設	1,737㎡	
体育館	972㎡	バスケット1 面分(バレーコート2面分)
武道場	405㎡	2面分
体育準備室	360㎡	倉庫・更衣室・部室等
管理諸室	624㎡	
職員室関連・事務室	320㎡	職員室/職員ブース/更衣室/校長室
保健室	64㎡	
会議室	64㎡	
相談室・進路指導室	64㎡	
生徒会室・放送室	80㎡	
共用部	1,462㎡	
廊下・通路	1,164㎡	バルコニー・テラス・庇は含まない
WC・倉庫・配膳室	298㎡	
中学校 合計	7,235㎡	

小学校 必要諸室	面積	備考
一般教室（小学校）	2,304㎡	
CR（クラスルーム）	768㎡	2 教室/1 学年×6 学年
ロッカースペース	288㎡	各CRに付随
OS（オープンスペース）	1,248㎡	
共用部	640㎡	
廊下・通路	416㎡	
WC・倉庫・配膳室	224㎡	
小学校 合計	2,944㎡	将来増築を想定

屋外体育施設	仕様
陸上トラック	200mトラック 6レーン
野球場	
テニスコート	とりやめ（周辺公共施設の利用）
プール	とりやめ（周辺公共施設の利用）

1. 教室
 - 中学教室
 - 中学オープンスペース
 - 小学教室
 - 小学オープンスペース
2. 教科教室
 - 小中共用 教科教室
 - 小中共用 教科準備室
 - 中学専用 教科教室
 - 中学専用 教科準備室
3. 体育施設
 - 体育施設
 - 体育準備室
4. 管理・共用部
 - 管理諸室
 - 廊下・通路
 - WC/倉庫等

全体 合計 10,179㎡

昨今続く建築費の高騰、更なる面積縮小によるコスト削減が望まれる

- 建築市場では、世界的なインフレや円安の影響による資材価格の高騰と人材不足による労務費の上昇を受け、建築コストの高騰が続いており、2020年から比較すると2025年の建築コスト水準は約59%上昇している。
- 2025年における学校用途の全構造平均坪単価 約155万円を参考に、以下に中学校の建設コストを算出する。

【中学校】

$7,235 \text{ m}^2 \times 0.3025 \text{ 坪/m}^2 \div 2,190 \text{ 坪}$

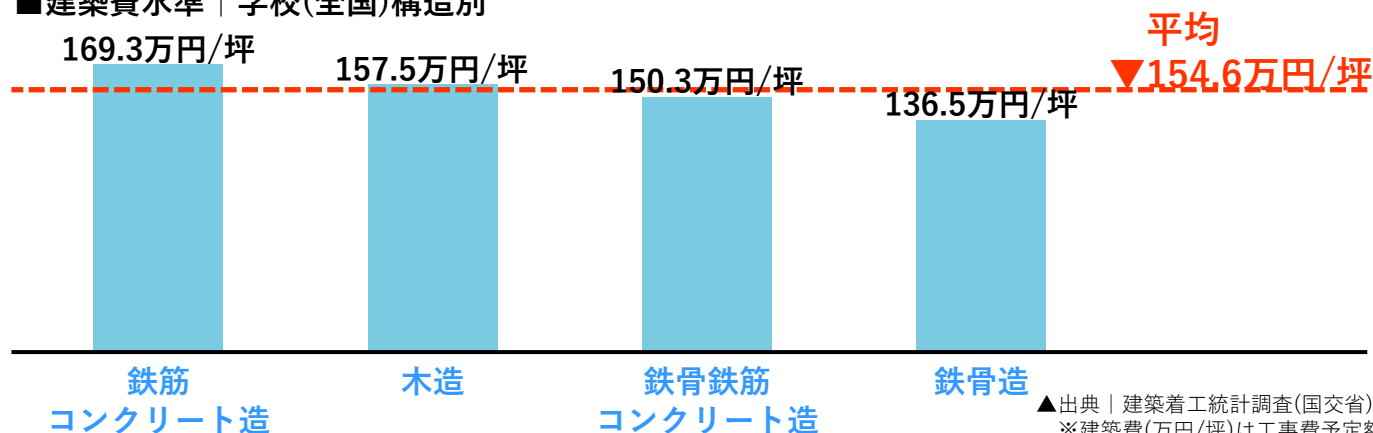
$2,190 \text{ 坪} \times 155 \text{ 万円/坪} \div 33.9 \text{ 億円} + \text{土地造成工事} \cdot \text{外構工事} + \text{諸経費}$

【小学校 増築】

$2,944 \text{ m}^2 \times 0.3025 \text{ 坪/m}^2 \div 890 \text{ 坪}$

$890 \text{ 坪} \times 155 \text{ 万円/坪} \div 13.8 \text{ 億円 (校舎のみ)}$

■建築費水準 | 学校(全国)構造別



▲出典 | 建築着工統計調査(国交省)に基づいて作成(2025年時点)
※建築費(万円/坪)は工事費予定額(円)を床面積(坪)で除した値

木の温かみが溢れる校舎 と 宮崎県産材の活用

1. 環境負荷の低減と地域材活用

- 木材は、建築物に利用することで炭素を長期間固定でき、脱炭素社会の実現に資する材料として活用促進が進められている。
- 本計画では、こうした環境的意義を踏まえ、宮崎県産材の活用を視野に入れた校舎づくりを検討する。

2. 制度改正を踏まえた木造校舎の可能性

- 近年は、木材利用促進法の改正により建築物一般で木材利用を進める流れが強まり、建築基準法の合理化によって、大規模建築物の部分木造化や低層部分の木造化も進めやすくなっている。
- 本計画でも、こうした制度的背景を踏まえ、構造への木材利用を含めた木造校舎の可能性を検討する。

3. 生徒が触れる素材としての木の価値

- 木は、視覚的にも触覚的にもやわらかさや温かみを感じやすく、生徒が日常的に触れる素材として学校空間に親しみと落ち着きを与える。
- そのため、構造体への利用に加え、内外装や家具など、生徒の学びや生活に近い部分まで幅広く木質化を検討する。

既存樹々と調和する、高さを抑えた木造2階建て校舎



■中学校校舎・中学テラス

この土地が持つ“広い空”を遮らないボリューム



■中庭 1 階

中庭側の教室も空が見え、光が入る



■ 1 階教室

中庭を囲む校舎、活気を伝えながら適度に離れる



■ 2階中庭側テラス

2層に抑えることで地面が近く、屋外へ活動がつながる



■ 2階中庭側テラス

木架構の大空間、多様な活動を受け止める「総合学習室」



■総合学習室（中学食堂・被覆室兼用）

総合学習室と連携する教科教室（技術室・調理室）



■技術室

総合学習室と連携する情報拠点（図書室・町立図書館）



■総合学習室(右)と図書室(左)の中庭

6. 今後の検討課題

今後の検討課題 ①

1. 将来の新小学校統合整備を見据えた計画の具体化

- **〔将来接続と施設共用の考え方〕** 令和20年度に予定される新小学校統合整備を見据え、現段階から新中学校計画の中に、将来的な校舎増築、諸室共用、動線接続の考え方を位置づけておく必要がある。
- **〔生徒数変化に対応できる再編の考え方〕** 将来の生徒数や学校規模の変化に対応できるよう、HB、教科教室、OS、少人数教室等の構成や運用について、再編に柔軟に対応できる考え方をさらに具体化していく必要がある。

2. 新中学校を使用しながら行う工事を前提とした仮設計画の具体化

- **〔将来工事を見据えた施設計画〕** 将来の新小学校校舎の建設工事は、新中学校を使用しながら進めることが想定されるため、施工方法、工事車両動線、仮設通路、仮囲い、安全区画のあり方を一体的に整理し、それが可能な計画とする必要がある。
- **〔工事動線と学校動線の両立〕** 工事車両動線と、登下校時の歩行者・自転車・スクールバス動線との関係も含め、生徒の安全確保と学校運営への影響低減を両立する工事仮設計画を、今後の設計段階で詳細に検討する必要がある。

3. 周辺公共施設との連携運用と教科教室型運営の具体化

- **〔周辺公共施設との連携運用ルールの整理〕** 本計画では、周辺公共施設を日常的な学校活動の場として活用することを前提としているため、各施設について、利用時間、予約方法、管理責任、一般利用との調整方法などの運用ルールの整理する必要がある。
- **〔教科教室型運営の具体化〕** あわせて、教科教室型の中学校運用が実際に成立するように、HB、教科教室、OS、少人数教室の使い分け、時間割編成、教員配置、周辺公共施設利用との関係を含め、運営体制を具体化する必要がある。

今後の検討課題 ②

4. 面積削減・効率化による建設コスト抑制の具体化

- ・ **〔与条件整理による面積削減の考え方〕** 近年の建設費上昇を踏まえると、建設コスト抑制には施設面積の削減が重要であり、そのためには周辺公共施設の活用や小中共用化を含めた必要諸室の与条件整理を進める必要がある。
- ・ **〔施設規模の適正化〕** その上で、周辺施設との役割分担や諸室共用を現実的な運用に落とし込みながら、必要な学習環境の質を確保しつつ、施設規模の適正化につながる具体的な面積計画を検討する必要がある。

5. 法規・成立性、構造・設備条件の詳細検証

- ・ **〔法規・成立性の詳細確認〕** 本検討では、既往検討を踏まえて施設計画の方向性を整理しており、建築基準法等に関する詳細な法規チェックは行っていない。今後は、配置計画、避難計画、用途・防火区画、バリアフリー、地域開放時の条件などを含め、法規面から計画の成立性を詳細に確認する必要がある。
- ・ **〔構造・設備条件の具体化〕** あわせて、構造形式、スパン計画、設備計画、周辺公共施設連携を前提としたインフラ条件等についても、今後の設計段階で具体的に検討し、計画全体の実現性を高めていく必要がある。

